

令和元年度・2年度 大分県租税教育推進協議会委嘱



租税教育研究紀要

地域についての理解を深め、自他の良さを認め合いながら

共に伸びようとする児童の育成

～租税教育の視点を取り入れた交流活動を通して～



租税 絵はがきコンクール 優秀賞受賞作品



宇佐市立和間小学校

はじめに

本校は、令和元年度に租税教育研究校の委嘱を受け、研究を進めてまいりました。2年目に当たる今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、広く公開することは叶いませんでしたが、大分県教育庁指導主事様・宇佐 税務署様はじめ各関係の方々にご来校いただき、ご指導・ご支援のもと2回に渡る検証授業会を開催し、研究・実践に取り組んでまいりました。今回、この2年間の研究内容をまとめ、評価・改善していく一つの材料となることを願って冊子を作製し、発表に代えさせていただくこととなりました。

さて、現在の教育に目を向けてみますと、新学習指導要領の移行が完了する中、急速なグローバル化やGIGAスクール構想、小学校の教科担任制、35人学級の実現など更に大きな変化が待ち構えています。子どもの将来を見据えて、一人一人の個性に合わせた教育の実現が目指されていると言えます。

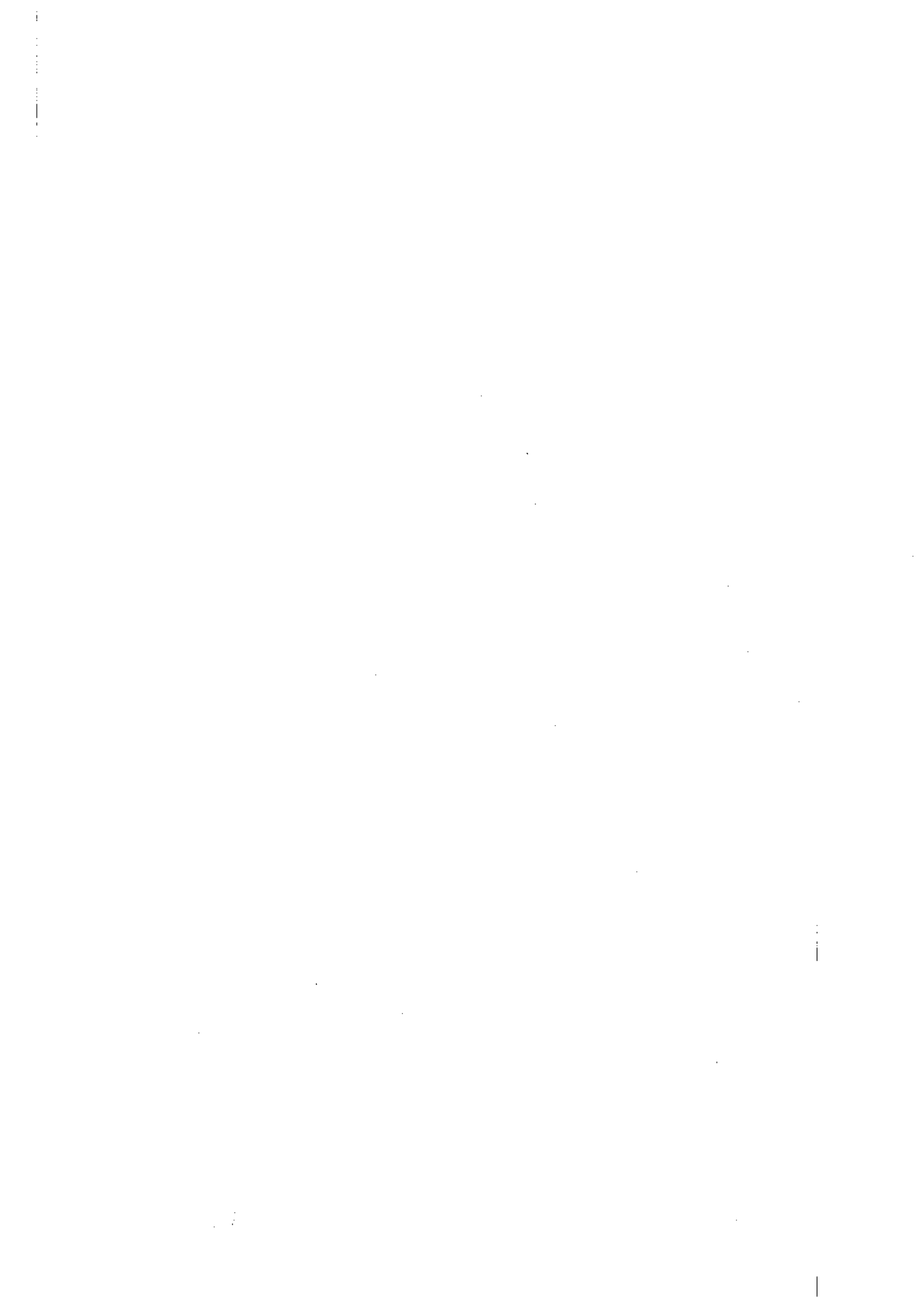
本校では、大分県租税教育のねらい「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身に付け、国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための能力を育てる」を受け、地域学習に主軸をおいた教科横断的な学びの場を設定して、郷土愛を育み、自他の良さを認め合える児童の育成を進めてきました。今の子どもたちが、社会と主体的に関わり、郷土に誇りを持ち、他者と協働しながら持続可能な社会の作り手となるための力をつけていくよう期待するものであります。

2年間の研修は、私たち教職員の意識を変え、広い視野に立って教育を推進するための原動力になったと言えます。「子どもに課題を引き受けさせる」「自分の考えを持たせる」「考えを伝える」「友だちの考えを受け入れて自分の考えを変えていく」等の授業論、また今回は「ふるさとを愛する心を育てる地域学習」や「地域の人との触れ合い・交流」を学習に組み込むことなどを計画・実施・検証・改善していく中で、教職員が一つの事をともに目指すという姿になっていきました。この度の租税教育研究発表校としての委嘱を受けることができたことに対しまして、深く感謝申し上げます。まだまだ、道半ばと考えています。今後も、租税教育に対しまして細く・長く取り組みを続けていくことを全教職員で確認しているところであります。

本研究を進めるにあたり、熱心にご協力・ご支援を頂きました大分県租税教育推進協議会、大分県教育委員会、中津教育事務所、宇佐市教育委員会の皆様方、また多方面でお世話を頂きました宇佐 税務署の皆様及び大分税務署の広聴広報官の皆様をはじめとする関係機関並びに各位に心より感謝申し上げます。

令和3年3月

宇佐市立和間小学校
校長 天野 文代



目次

I 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 主題の分析と研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 租税教育でめざす子どもの姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 5 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 6 研究方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ※授業観察シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 7 研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

II 租税教育全体計画

- 1 年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 2 各学年の指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～13

III 研究経過

1 授業実践（互見授業）

- 4年 社会科指導案（10月30日実施）及び事後分析・・・・・・・・ 15～22
- 3年 社会科指導案（11月6日実施）及び事後分析・・・・・・・・ 23～28
- 1, 2年 体育指導案（11月30日実施）及び事後分析・・・・・・・・ 29～35
- 2年 生活科指導案（12月3日実施）及び事後分析・・・・・・・・ 36～43
- 5年 理科指導案（12月4日実施）及び事後分析・・・・・・・・ 44～50
- 6年 社会科指導案（12月15日実施）及び事後分析・・・・・・・・ 51～57

2 検証授業（提案授業研）

- 1年 生活科指導案（11月16日実施）及び事後分析・・・・・・・・ 58～68
- 5年 総合的な学習の時間指導案（11月26日実施）及び事後分析・・ 69～76

IV 研究のまとめ

- 1 教職員アンケート及び分析会から・・・・・・・・・・・・・・・・ 77～80
- 2 児童アンケート及び分析会から・・・・・・・・・・・・・・・・ 81～82
- 3 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83～85

研究同人



I 研究の概要



I. 研究の概要

1. 研究主題

地域についての理解を深め、自他のよさを認めながら、共に伸びようとする児童の育成
～租税教育の視点を取り入れた交流活動を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

ふるさと「和間」を愛し、進んで学び、自他を大切にする
心豊かでたくましい児童の育成

めざす児童像

- ◎主体的に学び合う子 ……学びに向かう力・人間性等の涵養
- ◎自らの成長に向けてねばり強く努力する子……生きて働く知識、技能の習得
- ◎自ら考え行動し、表現する子 ……思考力、判断力、表現力等の育成

(2) 子どもたちの実態から

本校の子どもたちは、明るく元気で休み時間になると外で元気に遊ぶ姿が見られる。素直で真面目な子どもが多く、言われたことに対して、素直に取り組み、言われたことは必ずする、という子どもがほとんどである。学習に対してもやる気、意欲をもった子どもたちが多く、読書が好きで、よく本を読み、落ち着いて学習ができています。ほとんどの子どもたちが、課題に対して考えを自分の考えをもち、ノートに書くことができています。友だちの考えに対しても受容的な態度で発表を聞いている。友だちと遊ぶときにも、受容的な態度が見られ、友だちに対して強い否定をしたり、わがままを通したりすることなく、他を認め、仲良くしようとしている。身近な人たちの言動から、気持ちを察することができています。異学年との遊びをよくしていて、学年をまたいで交流をよくしている。

しかし、授業中、自分の意見を積極的に発表できる子どもがいる一方、自分の考えをもつことはできるが、考えをまとめたり発表したりすることを苦手としている子どももいる。自分の意見は言えるが、友だちの意見を最後まで聞けず途中で口をはさんだり、正しく聞き取ったりすることが苦手な子どももいて、伝え合おうとする意欲や力が十分についているとは言えない。また、自ら目標を設定したり、新しいことを始めたり、自ら探究心を持って追求する姿は、あまり見られない。

(3) これまでの研究経過から

本校では、これまでに、自分の思いや考えを豊かに表現するためには、「書くこと」の日常化が必要だと捉え、課題に対する自分の考えをノートに書いて意見を発表したり、お礼の手紙を書いたりして、自分の思いを表現させる取り組みをしてきた。また、集会や運動会練習の後など、様々な場での感想発表でも、自分の言葉で思いや考えを伝えることができるようになってきた子どもが多い。

昨年度は、交流活動を研究の中心に据え、研究主題の「自他のよさを認めながら、共に伸びようとする児童の育成」を図ってきた。さまざまな教科で交流活動を行い、課題を引き受けやすくしたり、交流をしやすくしたりするための有効な手立てを模索してきた。「交流」においては、ホワイトボードの活用、ペア・グループ学習を取り入れることによって、子どもたちが意欲的に学習に取り

組んだ。しかし、多様な意見が出たときのまとめに到るまでの手立てや、思考を広げたり高めたりするためのペアやグループ学習のあり方、学び合いのさせ方、考えを分類したり統合したりする力をつけるための手立てについては、まだ課題が残っている。

(4) 租税教育の目標から

大分県による租税教育は、「租税に関連した事項をとおして郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。」ことをねらいとしている。このことから、本校での租税教育の目標を下記の4つに設定し、進めることとした。

- ①郷土への理解を深め、郷土を大切にすする心や態度を育てる
- ②集団の一員としての態度を養う（協力する、主体的に行動する）
- ③人間尊重の精神を養う（自他を認め大切にすする、公共物や資源、環境を大切にすする）
- ④税に関する学習をすする

上記(1)～(4)のことから、本年度研究主題を「地域についての理解を深め、自他のよさを認めながら、共に伸びようとする児童の育成～租税教育の視点を取り入れた交流活動を通して～」と設定し、租税教育の目標を中心としたテーマで研究に取り組んでいくことにした。

3. 主題の分析と研究仮説

(1) 主題の分析

①「地域についての理解を深める」とは

地域に住む人々と交流をしたり、地域について調べたり学習したりすることで和間のよさに気づき、郷土を愛する心を育てていく。

②「自他のよさを認める」とは

「友だちの考えを最後まで聞く」「自分の意見を最後まではっきり言う」などの活動を通して、自分とは違うものの見方や考え方を知り、広い心で受け入れていく。

③「交流活動」とは

- 伝え合うことに加え、互いに評価し合いながら協力して言語活動を進める。「広げる思考」「深める思考」「高める思考」を豊かに展開することが、交流活動における大切な意義となる。
- 広げる思考：互いの内にあるものを自由に出し合う活動を通して自分と同じ考えや違う考えを受け入れ、育まれる思考
- 深める思考：広げる思考によってさまざまな情報を収集した後、この情報は正確か、適切か、複雑かといった観点で吟味する活動を通して育まれる思考
- 高める思考：広げ深める思考とともに、あるいはそれらの後で経験される思考

(2) 研究仮説

各教科等の中で、ねらいに即して子どもが学習の見通しをもち意欲的に取り組むことのできる学習を仕組み、一人ひとりの思いや考えを伝え合う交流活動を工夫すれば、児童の思考力・判断力・表現力が高まり、自他のよさを認め合いながら、共に伸びようとする児童が育つだろう。

○ねらいに即して子どもが学習の見通しをもち意欲的に取り組むことのできる学習を仕組む。

- ・子どもが自分の考えを持ちやすい課題の設定、子どもの思考の視点となるような課題、
- ・板書の構造化、活動の流れをカードで提示する。

○一人ひとりの思いや考えを伝え合う交流活動を工夫する。

- ・ペア、グループ、全体での話し合い、
- ・自分なりに考え、交流活動で考えを聞き合う。必ずどの子の考えも聞く。自分の考えと比べながら聞き、意見に反応する。
- ・教師は、どんな話し合いが行われているかを聞くことに務める。

(3) 研究内容

① 租税教育の視点に基づいた各学年の年間指導計画を立て、授業実践する。

② 主題に迫る授業づくりをする。

○見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題の設定。

○自分の考えをしっかりと持たせる。自分の立ち位置をはっきりさせる。

○自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く場で、自分の考えを広げたり、深めたり、高めたりする。(ペア、グループ、全体の話し合い)

○学んだことや考えたことを振り返り確認する。次の課題につないだりまとめたりする。

③ 授業実践や振り返りから、年間指導計画を見直す。

4.租税教育をめざす子どもの姿

①郷土愛

②集団の一員

③人間尊重の精神

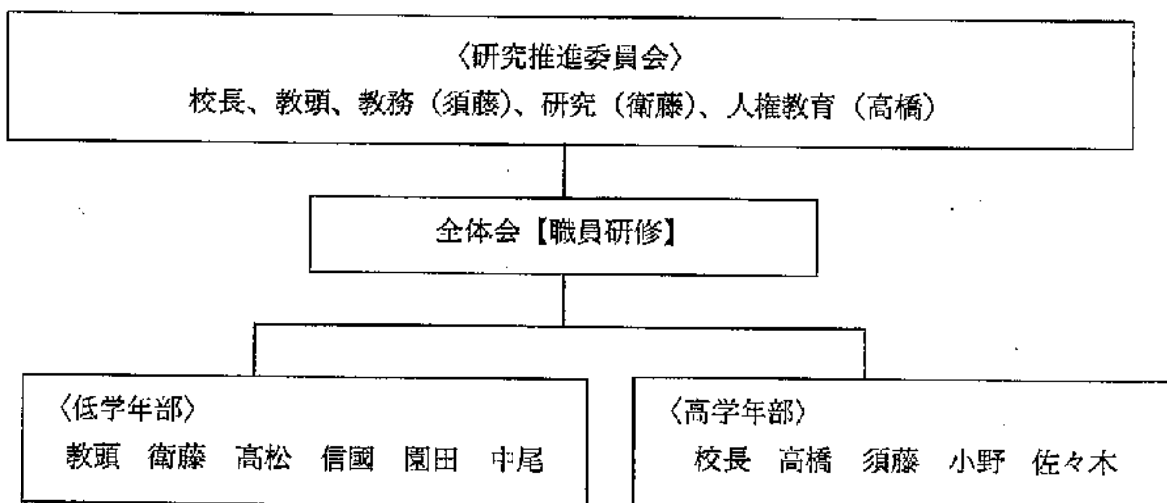
④税の学習

各学年の指導の重点目標

	郷土愛	集団の一員	人間尊重の精神	税の学習
低学年	地域の自然や行事を知り、楽しむことができる。	・友だちと助け合い、一緒に行動することができる。 ・活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	・自分の特徴に気づき、身近にいる人に親切にすることができる。	・みんなで使うものを大切にし、約束やきまりを守ることができる。
中学年	地域の伝統と文化を知り、大切にしようとする。	・仲間と力を合わせて、様々な活動に取り組むことができる。 ・集団としての目標や活動内容について合意形成をはかり、実践することができる。	・自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうとする。 ・相手のことを思いやり、正しいと判断したことは自信をもって行うことができる。	・公共の仕事や施設の大切さに気づく。 ・約束や社会のきまりの意義を理解し守る。
高学年	地域の伝統と文化を守ってきた人々の努力を知り、愛する心	・仲間のよさを生かして、様々な問題の解決に取り組むことがで	・自分のやろうと決めた目標に向かって、粘り強くやり抜くこと	・税の大切さを理解する。 ・法やきまりの意義

をもつ。	きる。 ・みんなで協力し合っ てよりよい集団を作 るとともに、様々な集 団の中で自分の役割 を自覚して行動する ことができる。	ができる。 ・自分の役割を自覚 し、友だちと一緒に目 標に向かって行動で きる。 ・相手の思いを受け止 めて聞いたり、相手の 立場や考え方を理解 したりして、自他のよ さを伸ばし合おうと する。	を理解した上で進ん でそれらを守り、自 他の権利を大切にす る。 ・地域の活性化に尽 力する人の存在を知 り、持続可能な社会 の実現をめざす。
------	---	---	--

5.研究組織



6.研究方法

(1) 全体研究授業

- ・租税教育の観点から、研究授業を行う。特定授業者以外の教師も、研究主題に迫る互見授業を行う。

①課題は、見通しをもち、めあてに向かうための児童の思考を助けたか。

②交流活動は、

- ・自分の考えを伝えていたか。
- ・他の意見のよさや違いを感じ、考えが広がったか（変わったか）。
- ・自分の考えの根拠などがはっきりし、深まったか。
- ・他の意見を取り入れて、自分の考えが高まったか。




の視点で、児童の変容を見る。

③振り返りが次の課題につながったか。本時がまとまったか。

①～③は、児童の発言やつぶやき、動作他で見る。

(2) 授業改善研修

- ・低高学年部に分かれ、月に1回、実践した交流活動の成果や課題について交流する。

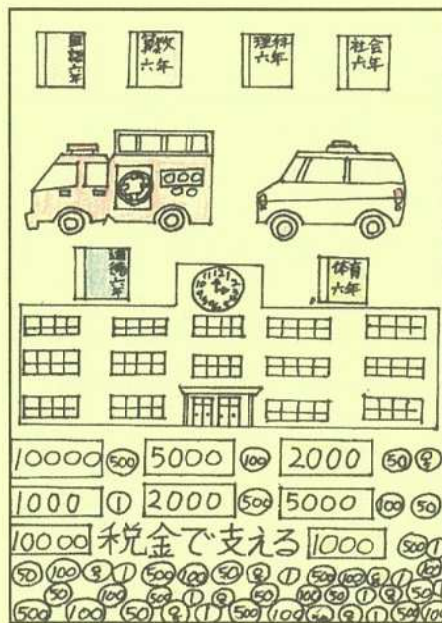
討議の柱	根拠となる発言・つぶやき・動作・ワークシートやノート	子どものとらえ 子どもの変容 等について
<p>1 課題</p> <p>見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか</p>		
<p>2 交流活動</p> <p>(1) 立ち位置をはっきりさせ、考えを持つことができたか</p> <p>(2) 考えを広げた (友だちの意見を聞いて考えが変わった人)</p> <p>(3) 考えを深めた (自分の考えの根拠をはっきりさせることができた人)</p> <p>(4) 考えを高めた (他の人の意見を聞いて自分の考えを膨らませた人、取り入れた人)</p> <p>(5) その他の変容のあった人</p>		
<p>3 振り返り</p> <p>次の課題につながったか 分かったことなどをまとめているか</p>		

7.研修計画

月	内容	備考
4月	○租税教育についての研修 ○学習規律などの共通理解 ○特別支援教育についての研修 ○年間指導計画の見直し	・昨年度までの研究の共通理解
5月	○研究の方向決定 ○交流活動についての研修	・研究主題・研究内容・計画などについて
6月	○児童の実態調査	
7月	○特別支援教育についての研修 ○各学年の租税教育の指導計画作成	
8月	○租税教育の学習会 ○各学年の租税教育指導案作成 ○人権教育学習会	・指導案づくり
9月	○指導案審議	・学年部での審議
10月	○一人一授業公開 ○指導案審議 ○税に関するアンケート実施、まとめ	・指導案作り ・授業実践の成果と課題
11月	○一人一授業公開 ○租税教育公開授業（指導主事招聘） 提案授業 1年 衛藤教諭 5年 須藤教諭	・指導案づくり ・授業実践の成果と課題 ・研究のまとめ
12月	○人権学習（共通資料） ○一人一授業公開	・参観授業での人権学習 ・PTA 研修部による講演会 ・指導案作り ・授業実践の成果と課題
1月	○人権教育公開授業 提案授業 4年 高橋教諭 ○人権教育のまとめ ○特別支援教育についての研修	・指導案づくり
2月	○研究のまとめ、 ○来年度の研究の方向づけ	
3月		

II 租税教育

全体計画



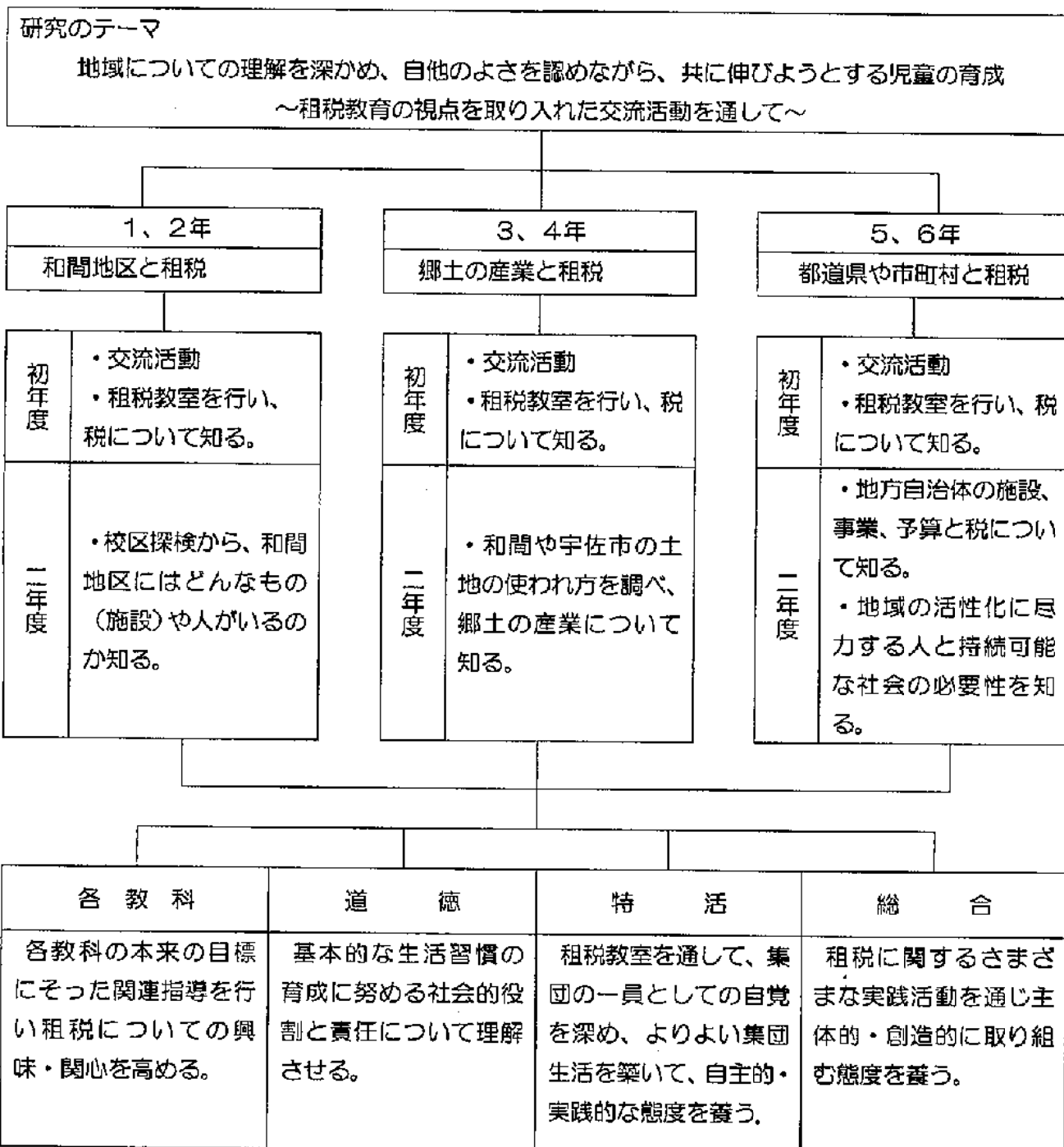
Ⅱ. 租税教育全体計画

1. 年間計画

1学期は、子どもと教師でテーマや内容の検討に十分に時間をかけることから活動を始め、2学期は本格的な調査・体験・協議など通してまちづくりのためにできることを考え、そして3学期は、実際にまちのために「行動」し、まちに還元していく。

今年度の実際の教育活動を以下のように大きく三つの段階に分ける。さらに、それぞれの段階に対応する学習内容を当てはめて評価軸として考える。

- ・「まちを知ること」(まち歩き、調査)
- ・「まちを考え・関わること」(人やまちとの関わり、発見・判断、価値観の共有、まちへの希望をもつ)
- ・「まちのために行動すること」(できることを行動に移す、まちづくりの輪を広げる)



2. 各学年の指導計画

第1学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団の一員	人間尊重の精神	税の学習
4月		がっこうだいすき(道) なかよくあそぼう(特) どうぞよろしく(国)		がっこうのきまり(特) がっこうだいすき(生)
5月	つうかくろをあるいて みよう(生)	うんどうかいにむけて (特) かかりかつどう(特) よいこととわるいこと (道)	あかるいあいさつ(道) なかよくね(道)	そうじのしかた(特) どうしてこうなるのか な(道)(※租税教室)
6月	がっこうまでのみち(道)	わけをはなそう(国) おおきなかぶ(国) かぼちゃのつる(道)	なかよくあそぼう(特) みんないきている(道)	みんなのこうえんであ そぼう(生)
7月		すきなものなあに(国) おおきなかぶ(国)	こんなことがあったよ (国)	としょかんとなかよし (国)
9月	ききたいな、ともだち のはなし(国)	取り替えっ子(道)	あさがお(道) いきているって(道)	こうていであきをさが そう(生) こうえんであきをさが そう(生)
10月	あきのことをつたえよ う(生)	やめなさいよ(道) くじらくも(国)	しらせたいなみせたい な(国) 二わのことり(道)	こうえんであきをさが そう(生)
11月	お世話になった人にか んしゃ(特)	ジャングルジム(道) いっしょにあそぼう (生) ともだちのことしらせ よう(国)	くりのみ(道) じぶんのいちにちをみ つめよう(生)	
12月	てがみてしらせよう (国)	はしのうえのおおかみ (道) 給食当番をしますの で、(道)	ともだちとなかよく (特)	
1月	にほんのあそび(道) そとであそぼう(生)		ちいさなふとん(道)	ふゆのこうえんにいこ う(生)
2月			「すき」からうまれた 「そらまめくん」(道) もうすぐ2ねんせい (生)	ものを大切にしよう (特)
3月		6年生にかんしゃのき もちをつたえよう(特) いいこといっぱい1年 生(国)	みんなみんな、ありが とう(道)	

第 2 学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団の一員	人間尊重の精神	税の学習
4月		あいさつ月間(道) どうしてきまりがあるの(道)	1年生をむかえよう(生)	まちのあんぜん(生)
5月		運動会に向けて 学校の行きかえり(特) そうじのしかた(特)	角がついたかいじゅう(道) ぶらんこ(道)	
6月	ときどきわくわくまちたんけん(生)	すごしやすいクラスに(道)	おり紙名人(道) ぐみの木と小鳥(道) スイミー(国)	租税教室
7月		あったらいいなこんなもの(国)	かえてきたホテル(道)	
9月		うごくおもちゃをつくろう(生) クラスの大へんしん(道)	およげないりすさん(道)	
10月		自分の仕事を見直そう(特) あい手のことをかんがえて	お手紙(国)	きいろいベンチ(道) みんなでつかうまちのしせつ(生)
11月	もっとなかよしまちたんけん(生)	そうだんにのってください(国)	こんなときどうするのかな(道)	
12月	つたわる広がるわたしの生活(生)	よりよい学級にしよう(特)		ぴかぴかがかり(道)
1月	冬のぎょうじにさんかしよう(生)		あしたへジャンプ(生)	
2月			ありがとうの絵(道) ありがとう発表会(生)	
3月		おたのしみ会をしよう(特)		

第3学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団の一員	人間尊重の精神	税の学習
4月	・わたしのまち み んなのまち(社)	・3年生になって (特)		
5月		・よろしくギフト (道)	はたらく人とわたし たちの暮らし《農家の 仕事》(社)	
6月	・和間の伝統文化を 知ろう《おはやし》 (総)		・こん虫の育ち方 (理)	
7月	・お年寄りと関わろ う《ふれあい活動》 (総)	・初めて知ったこと を知らせよう(国)		
9月		・楽しい運動会にし よう(特) ・係の仕事に取り組 むとき(道)	・詩…わたしと小鳥 とすすと(国)	
10月	・和間っ子の力を地 域に表そう《放生 会》(総)	・社会見学に向けて (特)		・暮らしを守る(社 会)
11月		・目の前は青空(道)		
12月				
1月			・ありがとうの気持 ちをこめて(道)	
2月		・学校のぶどう(道)	・わたしたちの学校 じまん(国)	
3月		・6年生に感謝の気 持ちを表そう(総) ・1年間をふりかえ ろう(特)		

第4学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団の一員	人間尊重の精神	税の学習
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・いいところいっぱい私たちの県 ① 私たちの県(社) 		<ul style="list-style-type: none"> ・世界で1つだけの花(道) ・土曜日の学校(道) ・思いやりって(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表を使って調べよう(表)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか、すこやか、みんなのくらし ② くらしをささえる水(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりぼっちのYちゃん(道) ・学校の決まり(特) 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵はがきと切って(道) 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・和間の伝統文化を知ろう《お囃子》(総) さわやか、すこやかみんなのくらし ① ごみのゆくえ(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級での出来事(道) ・みんな、待っているよ(道) ・交通安全のきまり(特) ・環境について(特) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの花(国) ・生きているしるし(道) ・ひとりぼっちのYちゃん 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞をつくろう(国)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害からくらしを守る ① 地震(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・このままにしていたら(道) ・自分の考えを伝えるには(国) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちをつなぐ岬(道) 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの校歌(道) ・ふるさとをゆたかに 地域につくした人々 宇佐平野と廣瀬井路(社) ・先人の偉業について知ろう(総) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたなら、どう言う(国) ・係や当番を見直そう(特) 結団式にむけて(特) 運動会にむけて(特) 	<ul style="list-style-type: none"> ・泣いた赤おに(道) 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとをゆたかに 地域につくした人々(社) 宇佐平野と廣瀬井路(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのみんなで決めるには(国) ・弟のふる入れ(道) ・そうじを見直そう(学) 		<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸のよさを伝えよう(国)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとをゆたかに 地域につくした人々(社) 宇佐平野と廣瀬井路(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨のバスでいりゆう所で(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと待ってよ(道) ・思いやりのかたち(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・概数とその計算見積もりを使って(算) ・広瀬久兵衛と新田開発(社)
12月	<ul style="list-style-type: none"> いいところいっぱいわたしたちの県 ① いってみよう、見てもみよう、わたしたちの県(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りだいこ(道) 		<ul style="list-style-type: none"> ・感動を言葉に(国)
1月			<ul style="list-style-type: none"> ・みんなちがってみんないい(道) 	
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・ブラッドレーのせい求書(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんのごらく(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・もしものときにどなえよう(国) ・調べて話そう、生活調査隊(国)
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・神戸のふっこうは、ぼくらの手で(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝がくると(道) ・二分の一人式にむけて(特・総) 	

第5学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団の一員	人間尊重の精神	税の学習
4月	・国土の特色と人々の暮らし(社)	・家族の生活再発見(家)	・教えてあなたのこと(国)	
5月		・運動会に向けて(特) ・わたしは飼育委員(道)		
6月	・暮らしを支える食料生産(社) ・秋の大収穫をめざそう(米作り)(総) ・和間の伝統文化を知ろう《おはやし》(総)		・メダカのたんじょう(理) ・すれちがい(道) ・命の歌—電池が切れるまで(道)	・わたしたちの生活と食料生産(社)
7月	・夏越祭り(総) ・みんなが過ごしやすい町(国) ・一ふみ十年(道)	・教育キャンプについて(特)	・人のたんじょう(理)	・生活を支えるお金と物(家)
9月	・秋の大収穫をめざそう(米作り)(総) ・これからの食料生産とわたしたち(社)	・ケンタの役割(道)	・「同じでちがう」(道) ・だれもが幸せになれる社会を(道)	
10月	・和間っ子の力を地域に表そう《放生会》(総) ・水がわたる橋(道)	・社会見学に向けて(特) ・いこいの広場(道)		・わたしたちの暮らしと工業生産(社)
11月	・曲げわっぱから伝わるもの(道) ・米を収穫しよう(総)	・クール・ボランティア(道)	・自分らしさを見つめよう(道)	
12月	・おおきに、ありがとう(道) ・お年寄りに年賀状を書こう《ふれあい活動》(総)		・やなせたかし—アンパンマンの勇氣(国)	・わたしたちの暮らしと情報(社)
1月	・収穫を祝おう(家) ・情報を生かすわたしたち(社)	・6年生に感謝の気持ちと受け継ぐ意思を表そう(総)	・マークが伝えるもの(道)	・わたしたちの生活と環境(社)
2月		・いっしょにほっとタイム(家)	・最後のコンサート(道)	
3月	・環境を守るわたしたち(社)		・6年生になったら(国)	

第6学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛	集団の一員	人間尊重の精神	税の学習
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・〈本は友だち〉地域の施設を活用しよう(国) ・春のいびき(国) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生をあたたくむかえよう(総) ・学級組織を決めよう(特) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を信じて一鈴木明子(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの暮らしと日本国憲法(社) ・国の政治のしくみと選挙(社)
5月		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に向けて(特) ・学級討論会をしよう(国) 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・和間の伝統文化を知ろう〈おはやし〉(総) 	<ul style="list-style-type: none"> ・和間っ子の力を表そう(総) 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏越祭り(総) ・海のゆりかご—アマモの再生(道) ・夏のさかり(国) 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・放生会にむけて(特) 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の計画(特) 	<ul style="list-style-type: none"> ・命について考えよう(特) 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・和間っ子の力を地域に表そう〈放生会〉(総) ・秋探し(国) 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行を振り返ろう(特) ・六年生の責任って?(道) 		<ul style="list-style-type: none"> ・戦国の世から天下統一へ(社)
11月			<ul style="list-style-type: none"> ・マザー=テレサ(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の国づくりを進めた人々(社)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに年賀状を書こう〈ふれあい活動〉(総) ・冬のおとずれ(国) 			<ul style="list-style-type: none"> ・世界に歩みだした日本(社)
1月		<ul style="list-style-type: none"> ・思い出を言葉に(国) 		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい日本、平和な日本へ(社)
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業に向けて—6年間の活動のまとめをしよう—(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の命(国) ・日本植物分類学の父—牧野富太郎(道) 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」の気持ちを伝える(道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校へつなげよう(国) ・感謝の気持ちを表そう(特) 		

外部講師や税務署との連携



税務署職員さんによる租税教室



1億円のレプリカの重さにびっくり！



DVD学習資料の提供を受けました

III 研究経過

1. 授業実践

(互見授業)



4 学年 社会科学学習指導案

令和2年10月30日 2校時

指導者 高橋 理絵

1 単元名 「ごみのしよりと利用」

2 《租税教育との関わり》

- ・集団の一員・・・仲間と力を合わせて、様々な活動に取り組むことができる。
- ・租税の学習・・・公共の仕事や施設の大切さに気づく。約束や社会のきまりを意識・理解し、守る。

3 単元(題材)設定の理由

(1) 児童観

本学級の児童は、1学期に「水はどこから」の学習をした。「つかむ」では、生活の中で多くの水が使われていることを知り、その水がなくなることがないかについて自分なりの考えをもって予想することから学習をスタートさせた。そして、川の水がどのように家庭に届くか動画をもとに知ることができた。「調べる」では、浄水場や下水処理場の役割や行程について、資料や教科書をもとに整理してまとめることができた。「活かす」では、水は限りある資源であり、使い続けていくために自分たちにできることを考え、全校や家庭に節水を呼びかけ、意欲的に取り組むことができた。しかし、学習したことと節水の必要性をつなげて考えたり、文章を組み立てたりすることが難しかった。また、必要な資料を集め、読み取ったり、浄水場で働く人々の思いや願いをインタビューしたりする学習時間が不十分であったからだと考えられる。

ごみについては、ごみステーションにごみが出されることを知っているが、そのごみの行き先については児童が多い。また、ごみの分別や処理方法について、燃えるごみや燃えないごみ、ペットボトルの分別は半数以上の児童が分かるが資源ごみの分別については分からない。さらに、ごみの量やごみの処理費用増大について考えた機会はないようである。ごみを減らす工夫を知っている子どもやリサイクルや減量について取り組んでいる児童は少なく、ごみを減らしていこうという気持ちは十分ではない。そこで、「水はどこから」の学習で不十分であった調査、見学、インタビュー、資料を活用するなどして主体的に学習に関わらせることで、これらの対策や授業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持、向上に役立っていることを理解し、ごみを減らしていく重要性に気づかせ、ごみを減らすために自分たちにできる工夫について考えさせていきたい。

(2) 教材観

本単元では、ごみの分別という家庭や学校での生活面や地域社会で見られる日常場面から学習問題を立て、学びを児童の生活実践に還元していくことができるよさがある。近年、地球環境を守ることがうたわれ、ごみを減らそうという取り組みが様々なところでなされている。今年7月には、ポリ袋ごみの削減のため、コンビニ、ドラッグストアなどでもレジ袋を有料化し、マイバックを推進するなど、地球温暖化やごみ問題などの環境への意識は、高くなっている。環境に配慮しながら、燃えるごみや燃えないごみの適切な処理、資源ごみの再利用が行われている一方で、新しい埋め立て地の問題、処理しにくいごみが増えている問題や市が抱えている問題など持続可能性を児童と追及することができる。また、ごみ処理には多額のお金が使われていることやごみ処理に人々の協力が必要であることについて考えさせていくことで公民的資質を養う教材の1つとなる。「ごみ問題」は児童にとって身近な題材であり、自分たちの生活をもとに、体験的・実践的な学習活動を行うことが可

能である。ごみを減らす活動を実践する際も、生活に密着した活動が行いやすいので、意欲をもって継続的に取り組むことができる。ごみを減らす対策について考えることを通して、これからの社会の姿について自分なりの考えをもてるようにすることをねらいとしている。

(3) 指導観

指導に当たっては、ごみと自分たちの生活との関わりをとらえるために、学校や家庭のごみを調査や分別、また、ごみステーションの見学を行うことで、普段何気なく捨てていたごみについて考え直させる。そこから、それらのごみをどこでどのように処理しているのかを具体的に調べ、生活環境を維持するためにごみの処理が果たす役割や意味を考えられるようにする。また、増え続けるごみの処理の対策として、ごみの処理の仕方、従事している人々の工夫や努力、ごみを資源として活用する工夫を取り上げ、これらが計画的・組織的に協力して行われていることを考えられるようにする。また、ごみ収集の見学、ゴミ処理に携わっている方の話、資料の読み取りなどを通して、ごみの問題が自分たちの生活に密接に関わっていることを理解させる。

本時では、ごみを処理するそれぞれの事業やそこで働く人々の視点に立ってごみ問題を解決するための方法を考えさせる。また、ごみ処理には市の財政や環境問題とつながりがあることを理解させるために、ごみ問題にかかわる取り組みを学習することを通して、ごみ問題を抱えたこれからの社会についての視点もてるようにする。考えるための技法としてステップチャートを使い、問題を解決するにはどうしたらよいか、解決するとどのような社会になるかなど、整理・分析しながら思考を巡らせるようにする。交流の場面では、整理した情報を比較したり、関連付けたりして考えることで多面的に選択・判断ができるようにする。

終末では、地域の住民の一人として、ごみの処理の方法や課題を解決していくために自分たちができることを具体的に考えさせ、実践していく態度を育てたい。

4 単元の目標

ごみが生活と密接に結びついていることやその処理やリサイクルが人々の協力と努力によって計画的に行われていることを自分たちが出すごみの種類や量、ごみ処理のきまり、処理の仕方や費用など具体的に調べることを通して、理解するとともに、地域社会の一員として主体的にごみ問題を追及・解決し、ごみを減らしていくために自分にできることを考えることができるようにする。

5 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ごみの処理にかかわる対策や事業の施設や設備などを調査・見学し、資料を活用して必要な情報を集め、読み取り、廃棄物処理のための事業の様子を理解している。	① ごみの処理やリサイクルが組織的、計画的に進められていることや、健康的な生活の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関係づけて考え、適切に表現している。	① 廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。
② ごみの処理にかかわる対策や事業は衛生的な処理や資源の有効利用が出来るように進められていることや、地域の	② 廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて	② 学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考え、実践しようとしている。

<p>人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができる。</p>	<p>廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。</p>	
--	--	--

6 指導と評価の計画(全12時間扱い うち総合2時間)

次 程	ねらい・学習活動	評価規準と評価方法
第 一 次	<div data-bbox="300 660 1023 824" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ごみを分別したり、ごみ収集カレンダーでごみの分別・出し方のきまりを読み取ったりして、学習問題をつくることができるようにする。(第1時)</p> </div> <p>○家庭のごみ調べをもとにしてごみの分別をする。</p> <p>○分別したごみ、出し方のきまり、種類別のごみの量について、分別収集カレンダーやグラフから気づいたことや疑問について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん種類に分けている。 ・燃えるごみが一番多い。 ・種類ごとに出す曜日が決まっている。 ・ごみの出し方の注意が書いている。 <div data-bbox="288 1234 1385 1290" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分別して出され、しゅう集されたごみは、どのようにして処理されるのだろうか。</p> </div> <div data-bbox="293 1323 1027 1447" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。(第2時)</p> </div> <p>○ごみを分別して収集する目的を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めやすい(清掃員、パッカー車) ・処理の仕方が違う(清掃工場) ・リサイクルするものがある(リサイクルセンター) <p>○処理の仕方や分別されたごみの行方など調べたいことの学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミステーション、パッカー車の見学 ・清掃工場見学 ・リサイクルセンター調べ ・清掃工場などで働く人にインタビュー 	<p>思① 家庭から出るごみの調査結果や収集カレンダーを手掛かりにごみの処理について調べるための学習問題を考え表現している。 (ワークシート、発表)</p> <p>態① 学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持っているか。 (ワークシート、発言)</p>

ゴミステーションやパッカー車を見学、調査してごみを処理する仕組みについて理解することができるようにする。
(第3時)

○ゴミステーション(ごみ置き場)やパッカー車を調査、見学したり各種資料を活用したりして調べる。

- ・ゴミステーション、パッカー車のごみを処理する仕組み
- ・ゴミステーション、パッカー車の仕事の工夫や苦勞

清掃工場を見学、調査したり資料で調べたりして、清掃工場にはごみを処理する仕組みがあることを理解することができるようにする。(第4・5時)

○清掃工場を調査、見学したり各種資料を活用したりして調べる。

- ・清掃工場が燃えるごみを処理する仕組み
- ・清掃工場の仕事の工夫や苦勞

ごみを燃やした後の灰や焼却熱が適切に処理されたり、有効に利用されたりしていることについて理解することができるようにする。(第6時)

○燃やした後に残った灰のゆくえについて予想する。

- ・別の場所に埋められるのではないか。
- ・再利用されるのではないか。

○ごみを燃やした後の灰がどのように処理されるか調べる。

- ・不燃物処理場が灰を処理する仕組み
- ・不燃物処理場の仕事の工夫や苦勞

資料を活用し、不燃物処理場(リサイクルセンター)が燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を調べることができるようにする。(第7次)

○不燃物処理場が燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を各種資料で調べる。

- ・燃えないゴミ、資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組み
- ・不燃物処理場の仕事の工夫や苦勞

見学・調査・資料で調べたり、インタビューしたりした問題点をまとめ、次時の課題をつくることができるようにする。
(第8、9時)

知①

必要な情報を集め、読み取り、パッカー車のごみを処理する仕組みなどについて理解している。

(ワークシート、発言)

知①

必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解している。

(ワークシート、発言)

知①

必要な情報を集め、読み取り、燃やした後の灰を処理する仕組みなどについて理解している。

(ワークシート、発言)

知①

必要な情報を集め、読み取り、燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組みなどについて理解している。

(ワークシート、発言)

知②

問題点についてそれぞれの処理場からの工夫や苦勞から問題点を整理し、まとめている。

<p>第三 次</p>	<p>○学習したことからごみ処理にはどのような問題があるかを整理し、まとめる。</p> <p>○宇佐市のごみの問題点を資料から読み取る。</p> <p>○市の環境課の人の話を聞き、市のごみ処理に対する考えや取り組みを知り、問題点を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ごみ処理の問題点を解決するにはどうしたらよいか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ごみ問題を解決するために、ごみを処理する仕組みや働く人の願い、問題点を関連づけることを通してよりよい社会を作るための選択、判断をすることができるようにする。(第10時・本時)</p> </div> <p>○ごみ問題を解決するために自分たちで出来ることを考える。(ステップチャート)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習したことをまとめ、ごみを減らすために自分たちが協力できることを考え、実践しようとする態度を養う。(総合2時間)</p> </div> <p>○学習したことをまとめ、ゴミ減量作戦を全校に広める。</p>	<p>(ワークシート、発言)</p> <p>態① 宇佐市の問題点についてこれから解決していくべきことをさらに追及しようとしている。 (ワークシート、発言)</p> <p>思② ごみ問題を解決することと目指す社会について関連付けて考えている。 (ワークシート・発言)</p> <p>態② 学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考え、実践しようとしている。 (ノート、発表)</p>
-----------------	--	--



7. 本時案 (10/14)

《祖税教育との関わり》

- ・集団の一員・・・仲間と力を合わせて、様々な活動に取り組むことができる。
- ・祖税の学習・・・公共の仕事や施設の大切さに気づく。約束や社会のきまりを意識・理解し、守る。

(1) 題目 ごみ問題を解決しよう。

(2) 主眼 ごみ問題を解決するために、ごみを処理する仕組みや働く人の願い、問題点を関連づけることを通してよりよい社会を作るための選択、判断をしている。

(3) 展開

過程	学習活動	時間	教師の指導・支援	評価等
つかむ	1. 前時の振り返りをして、本時の学習課題を確認する。	5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">本時のめあて ごみ問題を解決しよう。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 25%;"> <p><バツカー車> きまりを守らない</p> <p>時間や曜日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収できずに困る <p>分別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ処理の負担、手間 ・ゴミ処理の危険 ・機械の故障 </div> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; width: 25%;"> <p><ごみ焼却場> ごみの量が多い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日 平均64 t ・一人 約903 g ・ごみ処理がおいつかなくなる ・ゴミ処理の負担 <p>かんきょう環境にわるいものが出る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイオキシン ・二酸化炭素 </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: 25%;"> <p><最終処分場> 埋め立て地がいっぱいになる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと14,5年 </div> <div style="border: 1px solid purple; padding: 5px; width: 25%;"> <p><税金> ごみ処理に税金がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6億8千万円 <p>(1年間)</p> </div> </div>	
			本時の課題 ごみ問題を解決するとどのような社会になるかな。	
もどめ	2. ごみ問題を解決することによってどんな社会になるか自分の考えを書く。	5分	<p>○ステップチャートを使って、問題点を解決することによってどんな社会になるかをワークシートに書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>問題点 → 解決するための方法 → 目指す社会</p> </div> <p>※質問、調査してきた工夫や苦勞、願いを学習ファイルから想起させ、問題点、解決の方法、目指す社会を考えさせる。</p>	<p>思・判・表②</p> <p>ごみ問題を解決することと目指す社会について関連付けて考えている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>
	3. グループで考えをまとめ、発表する。	15分	<p>○問題点ごとのグループで交流し、ステップチャートに考えをまとめさせる。</p>	

ふかめる	4. 全体で交流し、各問題点における解決策や目指す社会の共通点を比較し、関連づけながらまとめる。	15分	<p>○ごみを出す私たち、清掃員の視点やごみ問題を解決するための方法や目指す社会の共通点を多面的、多角的に捉えられるように考えさせる。</p> <p>※目指す社会については、キーワードのどれになるかを考えさせ、まとめていく。</p> <p>安全面 安心 環境、健康、持続可能</p>
まとめる	5. 本時のまとめをし、振り返りをする。	5分	<p>※本時のまとめ</p> <p>ごみの量をへらすと環境によい、健康、安全、安心、税金を大切に使える社会になる。</p> <p>きまりを守ると、安全、安心な社会になる。</p> <p>(ゴミを出す私たち、清掃員の方)</p> <p>本時のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの量をへらすことで健康、安全、安心、税金などたくさんのことがよくなる社会になることが分かった。 ・ごみを減らしていくために、自分にできることを考えて、みんなで取り組んでいくことが大切だと思った。



10月30日互見授業

【1見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか】

課題：**ごみ問題を解決するとどのような社会になるかな**

自分が調べたことからすぐに考えを書き出す子がほとんど→前時の流れが分かっている。

9人が清掃員について、2人が税金について記述

なかなか書けない子もいた→課題を捉えられていない→そのための支援は？

この課題で本時は流れたが、捉えの弱い子への支援をしていく必要があった。この課題を受け止められた子もいたが、もっと自分の事として捉えやすい課題にすることも考えられる。例「ごみ問題を解決するために自分にできる事は何か」とすると、「私は〇〇したい」等、自分を主語にして書く事ができる。→自分事につながる

【2交流活動について】

(1) 立ち位置をはっきりさせ、考えを持つことができたか

立ち位置をはっきりしていたから、比べることができた

(2) 友だちの意見を聞いて考えが変わった

変わった子は確認できなかった

(3) 自分の考えの根拠をはっきりさせることができた

HS、YDは「同じや」の発言

環境に悪い有害物質が出ることに同調（付箋から確認）していた HT、MM、OY

HTの「癌になりやすい」「奇形児が生まれる」等の考えも出たが、個人の考え

食品ロスや無駄遣い、すぐに出てるものは買わない等の具体的な考えがグループで出ていたので、グループで質問し合ったり全体のものにしたりするとよい→グループや全体の交流につながる→深まる

(4) 他の人の意見を聞いて自分の考えを膨らませた

MD「まとめたらいいんやないん」→他の人の意見を取り入れている

グループごとに解決策と未来を考えるために話し合う活動は互いを認め合い、関連付けて考える手立てとして有効であった。

班活動としては付箋を比べて、比較やまとめができていて上手だったが、ほとんどの子は付箋に書いたことを言っていた。そこから、交流をさせるためには「なぜか」「どういうこと？」「それいいね」「すごいね」等の発言がほしい。そのための手立てはどのようなものがあつたか。まとめることが目的となっていなかったか。まとめ方のキーワードを使わせる方法もある。

班活動の位置づけとして、まとめることだけではなく、互いの考えの根拠を知る、それをもとに考えを深めるための手立てがあるとよい。児童の多様な意見を出させるため。例 地域や自分の家のごみを振り返らせるよう声掛けする、生活体験をもとに話させる等。

【3振り返りについて】

振り返りの時間は取れなかったが、どうしたら振り返りまで1時間の中でできるのか事前に考えておくべきである。本時のまとめはできたが、自分の事として考えるような振り返りが必要である。

振り返りの時間の確保のためには、どこを短縮するのか考えてみると、ごみ問題点の発表時間、ステップチャートへの記入の時間、付箋の利用の仕方等どこかを短縮する。

振り返りで、「自分事」「自分の生活」に落とし込む。時間設定を見直す。

第3学年 社会科学習指導案

令和2年11月6日2校時

指導者 園田 悠里

1 単元名 地域の農業

2 租税教育との関わり

- ・郷土愛・・・地域の伝統と文化を知り、大切にしようとする。
- ・集団の一員・・・仲間と力を合わせて、様々な活動に取り組むことができる。
- ・人間尊重の精神・・・相手のことを思いやり、正しいと判断したことは自信をもって行うことができる。
- ・税の学習・・・約束や社会のきまりの意義を理解し守る。

3 題材設定の理由

(1) 児童について

本学級の児童13名は、何ごとにも意欲的に取り組む児童が多い。1年生の頃は、生活科体験学習で地域の松崎公園に行き、2年生では、「町のすてきな所」探して、コスモスがきれいに咲いている所を見つけ、地域探検に行った。

子どもたちは、自分たちが住んでいる和間校区で「ぶどう」が作られていることは、クラスの児童の祖父がぶどう園をしていることで知っていたが、ぶどう作りについて・生産者の思い・苦労は知らない児童が多かった。

1学期見学に行く予定だったが、コロナ禍の中で見学に行くことはできなかった。見学を通して観察したことや、生産者から聞き取りをしたことをもとに学習することは初めてである。1学期国語の学習「仕事のくふう、みつけたよ」では、自分が調べたい仕事について、友だちと協力してiPadを使い調べて、まとめて発表することができた。2学期国語の「班で意見をまとめよう」では、司会・記録・時計と役割分担をして話し合い、グループの考えをまとめていく学習をした。子どもたちは、練習を重ねて、少しずつ話し合いができるようになっていく。

(2) 教材について

和間校区で作られている「ぶどう」は市内でも有名である。これらの生産には地域の人が携わっていて、生産の様子の見学調査が可能であること、子どもにとって身近な農作物であることなどが教材化の理由である。

「ぶどう」作りの作業は、1年間に及びさまざまな作業があり、生産過程には様々な取り組みや工夫がなされている。社会科を学び始めた3年生が見学を通して、観察したことや、生産者から聞き取りをしたことをもとに学習できる教材になっている。見学を通して学んだことを、グループごとに協力して「新聞」にまとめ掲示することで、多くの人に学びを伝えることができる。

おいしいぶどうを作っていくには、工夫・努力・大変な作業が多いことを学ぶ。しかし、どうしてそこまで苦労をしてぶどう作りを続けているのか、橋本さんの思いをみんなで考えていくことができる教材である。

(3) 指導について

第一次で、和間校区で作られているぶどうについて、知っていること・知らないこと・知りたいことを出し合う。知りたいことを学ぶために、見学に行きインタビューをするようにする。

第二次では、見学に行き生産者橋本さんの話を聞くこと・見学することで、ぶどう作りについて多くのことを初めて知ることができる。子どもたちはおいしいぶどうを作るために、たくさんの仕事をしていることを学ぶ。インタビューを通して、知りたかったことについても学ぶことができる。

第三次では、見学に行き学んだことを、グループで「新聞」にまとめる。新聞に載せる内容は、「ぶどう作りについて知らせたいこと」と題して、グループで決めさせる。初めての新聞作りなので、4年生が制作した壁新聞からどのように新聞作りをしたらよいか、確認し合って制作していく。まとめでは、橋本さんがぶどう作りを続けていく中で、工夫しているところ・努力しているところ・大変なところを個人で考え、グループでまとめ交流していく。そして、橋本さんがぶどう作りを続けている理由をみんなで考え、最後に橋本さんのインタビュー動画を見て、思いに迫るようにする。

3 単元の目標

地域に見られる農家の仕事について、仕事の種類、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり資料で調べたりして、まとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉えることができる。また、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は、地域の人々の生活と密接な関りをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 農家の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の様子を理解している。 ② 調べたことを文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。	① 農家の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見いだし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考える表現している。 ② 生産の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	① 地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

5 指導と評価の計画（12時間扱い うち社会8時間・総合4時間）

次程	小単元名（時数）	ねらい・学習活動	評価規準と評価方法
第一次	<p>和間校区で作られるぶどう（1）</p> <p>学習計画を立てよう（1）</p>	<p>ぶどう作りについて知っていることを出し合う。</p> <p>○知っていること、知らないこと、知りたいことを出し合う。</p> <p>班で協力して、学習計画を立てる。</p> <p>○課題解決のために、班で調査方法・見学の計画・調べるポイントをまとめる。</p>	<p>[知]①</p> <p>[思]①</p> <p>・発言分析</p> <p>・ノート</p> <p>[態]①</p> <p>・発言分析</p> <p>・ノート</p>
第二次	<p>ぶどう園に見学に行こう（2）</p> <p>調べたことをまとめよう（5）</p>	<p>おいしいぶどうを作るために、努力していることをみつける。</p> <p>○見学で、農場の様子を見たり、働いている人に疑問をインタビューしたりする。</p> <p>農家の方の畑を見学したり話を聞いたりして、疑問に思ったこと、気づいたことを新聞にまとめる。</p> <p>○見学して得た情報を整理し、販売する側の仕事の工夫と消費者の願いの関連を考えて新聞にまとめる。</p>	<p>[知]①</p> <p>・発言分析</p> <p>・ワークシート</p> <p>[知]①②</p> <p>・発言分析</p> <p>・ワークシート</p> <p>・新聞</p>
第三次	<p>まとめたことを発表しよう（1）</p> <p>農家の人の思いを知ろう（2） （本時2/2）</p>	<p>新聞にまとめたことを、班ごとに発表する。</p> <p>○まとめたことを班ごとに発表する。</p> <p>橋本さんはどうしてぶどう作りを続けているのか、思いを考える。</p> <p>○橋本さんがぶどう作りを通して工夫しているところ・努力しているところ・大変なところを、個人で考えさせた後、グループでホワイトボードにまとめさせる。</p> <p>○ぶどう作りを続けているのか橋本さんの思いを考え、動画を見て思いを知る。</p>	<p>[知]②</p> <p>・発言分析</p> <p>・ノート</p> <p>[知]①</p> <p>・発言分析</p> <p>・ワークシート</p>

6. 本時案 (12 / 12)

(1) 題目 農家の人の思いを知ろう。

(2) 主眼 ぶどう農家橋本さんがぶどう作りを続けている思いを、工夫しているところ・努力しているところ・大変なところを出し合い考えることで、理解することができる。

(3) 展開

過程	学習活動	時間	教師の指導・支援	評価等
つ か む	1. 本時のめあてを確認する。	10	<p>【めあて】橋本さんのぶどう作りの思いを知ろう。</p> <p>○前時グループでまとめた「橋本さんがぶどう作りを通して工夫しているところ・努力しているところ・大変なところ」を、発表させる。 (工夫しているところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一房にぶどうの粒を減らして作っていること ・消毒していること (努力しているところ) ・朝5時～6時に起きて作業をすること ・雨が降らない日は、毎日水やりをすること (大変なところ) ・ぶどうを間引くこと 	
も と め る	2. 個人で考えたことを、グループで話し合う。	15	<p>【課題】どうしてぶどう作りをつづけているのかな。</p> <p>○「どうして橋本さんは、こんなに大変なぶどう作りを続けているのか」個人で考え、グループで出し合い、話し合わせる。(ホワイトボードに書く)</p>	
ふ か め る	3. 全体で話し合う。	10	<p>○それぞれの班が書いたホワイトボードを黒板に貼り、発表し全体で話し合わせる。</p> <p>○教師が事前に橋本さんのぶどう作りの思い、なぜぶどう作りを続けているのか聞いておき、その内容を動画で子どもに伝える。</p>	
ま と め る	4. まとめる	10	<p>○子どもたちの考え、橋本さんの言葉から、まとめさせる。</p> <p>【まとめ】橋本さんは、お客さんがよろこんでくれるから、ぶどう作りをつづけている。</p> <p>【ふりかえり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんのためにがんばっていてすごい。 ・農業が好きなのがすてき。 ・身近に橋本さんみたいな人がいてうれしい。 ・和間校区を大事にしたい。 	<p>[知]</p> <p>見学、調査したことから、橋本さんがおいしいぶどうと作るために、様々な工夫をしている様子を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析 ・ワークシート

園田学級の互見授業について

課題を受け止めていたか？

○多くの子は、すぐに書き始めていた。内容は「お客さんに喜んでもらうため」が多かった。

○理由まで書いている子も多かった。

理由：RTは忙しいことをやらないとお客さんが喜ばないから

HMはみんなたくさん食べたいし、喜んでいる皆を見たいから

ATはお客さんの笑顔を見たいから

○新聞づくりの時に、各班の記事に「どんな気持ちで育てているか」→「お客さんに喜んでもらう」というのが、書かれていた。ここが子どもの考えの根拠と思われる。

○YKさんは、担任が支援に入って書く事ができていた。「お客さんに喜んでもらう」

前時までの工夫や努力が、子どもたちのものとなっていたため、課題を引き受けていたと思われる。個別の支援もできていた。

交流について

○全体的には、一人一人が書いたことを読んで、ホワイトボードに書く事に時間を費やしていた傾向がある。

○友だちの発言に「理由は？」と聞く声が複数班で聞かれた。それがホワイトボードに書くためか、気持ちを尋ねているのかは判断できなかった。

○AT「あたしもそうだよ」と言い、友だちの意見を受け入れていた。そのあとにATが考えを言う番であったが、「私は誰かが応援してくれるとうれしいからです。」と言っていた。「私は」を強調した言い方で、自分の考えの根拠を確認できたと捉えてよい。

○ME・YK・RT・MIのグループでは、MEが「お客さんを喜ばせたい。お客さんが喜ばなかったら、自分だったらやめていると思う。」という意見を出した。ここで、「あなただったらどう？」と聞いてみると、YKは「でもお客さんを喜ばせるためにやめない」と笑顔で、すぐに答えていた。YKは橋本さんの思いを受け取っている。RTは首をかしげていた。MIは返事に困っていた。この二人は揺さぶられたと言える。そのあとさらに、MEが「おいしいと言ってくれなかつたいやだから」と発言を続けた。この発言の裏には、「おいしいと言ってほしいから続けている」という思いがあるのではないか。

このグループの深まりが見て取れるが、まだグループ内だけでは話が深まらないので、「あなただったらどう？」などの教師の支援が必要だったのではないか。

○交流後の教師の出番

「自分だったらやめてしまう」や「応援してくれる人」等の意見を取り上げ、子どもの思考をつなげていた。そのあと、録画を見せることで、根拠を明らかにすることができた。

一人一人が考え（多様な考えがあった）を持っているが、グループで広げるためには、今の段階では教師の支援（声掛け）が必要なのではないか。「あたしもそうだよ」等の発言ができてきているので、話型の「わかりました」「良いです」などから、はなれて、自分の言葉で交流することも必要となってくるのではないか。（交流のさせ方）

振り返り

こんな橋本さんをどう思うかということも含めて書くよう指示していた。多くの子は、「すごい」と書いていた。変容の見られたYKは「おいしいぶどうをつくることは簡単じゃないということが分かった」と書いていた。MEの意見を受け入れ、自分の考えを膨らませることができたと分析する。

単元の最後の時間であったので、この学習が子どもの中でまとまるような振り返りができていればよいと考える。



第1・2学年 体育科学習指導案

令和2年11月30日 3校時

指導者 信國 裕計

1 単元（題材）名

「ボールなげゲーム」

2 単元（題材）設定の理由

（1）児童生徒について

1年生17名（男4女13）2年生16名（男7女9）である。体を動かすことが好きな児童が多く休み時間、外で鬼ごっこやサッカーなどして元気に体を動かしている姿をよくみる。体育の授業でも意欲的に取り組みしっかり体を動かすことができている。1学期の体育の授業では、50m走や体ほぐしの運動あそびなど個人的におこなう運動をおこなってきた。体ほぐし運動の中でボールを高く投げてキャッチしたり、床についたり足でけったりする運動は行ってきた。少しずつではあるがボールに慣れてきて床についたり捕ったりする動きは慣れてきた。しかし、動きながらボールを投げたり捕ったりする運動やチームで行う運動はできていない。

（2）教材（題材）について

ボールなげゲームでは、ボールを投げる当てる等の技術と同様に、仲間と協力してゲームを楽しむことの工夫や楽しいゲームを作り上げることが重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームでは、ゲームの決まりを工夫し、投げる、当てる等の簡単な動きを身に付け、次にパスなど動きながらのボールの操作などの少し難しい動きを身につけることで、ゲームを一層楽しくすることが学習の中心となる。また、ルールや決まりを守ろうとする態度、特に勝敗の結果をめぐる正しい態度や行動が取れるようにすることが大切である。

（3）指導について

ボール運動の基礎になる学習である。ゲームを通して投げる、捕るという基礎的な運動を体験させボールを使った運動への関心や技能を高めたい。1時間の授業の中でゲームを取り入れ動きながらボールを投げる捕る、的を狙って投げる、パスをする等徐々にボールに慣れながら動く動きに慣れさせていきたい。また、うまく投げたり捕ったりするコツやうまくパスをするコツなどを発表させ教え合いをさせていきたい。そしてゲームをおこなっていくことで決まりを守って仲良く活動する態度を身に付けたり、集団で競い合う楽しさを味わわせたい。

3 単元の目標

- ボールゲームの簡単な規則や簡単なボール操作、ボールをもたない時の動きを知ることができるようにする。
- 楽しくゲームを行い、簡単なボール操作や攻めや守りなどのボールをもたないときの動きができるようにする。
- 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりし、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り、だれとでも仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりすることができる。

4 単元(題材)の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価の規準	内容の まとまりとしての 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なボール操作やボールを持たないときの動き方を知っている ・投げる、当てる、捕るなどの簡単なボール操作のゲームをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめるように、的当てゲームの規則を工夫している。 ・的当てゲームの簡単な攻め方を選んでいる ・簡単な攻め方について考えたことを友だちに伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・的当てゲームのきまりをまもり、勝敗を受け入れ友だちと仲良くゲームをしようとしている。
	一年	<ul style="list-style-type: none"> ①投げる、当てる、捕るなどの簡単なボール操作のゲームをすることができる。 ②ボールゲームの簡単なボール操作やボールを持たない時の動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①楽しくゲームができる場や得点の方法など自己に適した場や規則を選んでいる。 ②ボールを捕ったり止めたりすることについて、考えてことを友達に伝えている。 ③ボールが飛んでくるコースに入ったりボールを操作しやすい位置に動いたりすることについてかんがえたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボールゲームに進んで取り組もうとしている。 ②順番や規則を守り、だれとでも仲良くしようとしている。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> ①投げる、当てる、捕るなどの簡単なボール操作のゲームをすることができる。 ②ボールゲームの簡単なボール操作やボールを持たない時の動きができる。 ③ボールの飛んでくるコースに入ったり、ボールを操作しやすい位置に動いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①楽しくゲームができる場や得点の方法など自己に適した場や規則を選んでいる。 ②ボールを捕ったり止めたりすることについて、考えてことを友達に伝えている。 ③ボールが飛んでくるコースに入ったりボールを操作しやすい位置に動いたりすることについてかんがえたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボールゲームに進んで取り組もうとしている。 ②順番や規則を守り、だれとでも仲良くしようとしている。 ③勝敗を受け入れようとしている。 ④用具の準備片づけを友達と一緒にしようとしている ⑤安全にゲームができるかなどの、場の安全に気を付けている。

5 指導と評価の計画（8時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	評価規準と評価方法
<p>ボールなげゲームについて知ろう (1)</p>	<p>ボールなげゲームの学習のすすめ方やマナーやルールを理解することができる。</p> <p>○ルールやマナーの確認</p> <p>○ボール操作する技能を身に付けるための補助運動をおこなう</p>	<p>【主体的】</p> <p>①：観察</p>
<p>ボールをねらったところに投げたり、捕れたりできるようになる。(3)</p>	<p>ボールをねらったところに投げられるようになげたり捕ったりできようになる</p> <p>○ボール操作する技能を身に付けるための補助運動をおこなう</p> <p>○投げる捕る技能とゲームをおこなう。</p> <p>《ねらったところに投げる》</p> <p>投げる技能（投げる方向に対して体を横に向ける。目標をしっかりと見る。あげた足を前に踏み出す）を確認して的確にゲームをする。</p> <p>《ボールを捕る》</p> <p>捕る技能（両手で構える。ボールの動きをよく見て体の正面で捕れる場所に移動する。体の正面でしっかりと捕る）を確認してボールキャッチゲームをする。</p> <p>○的確をめがけて動きながらボールを投げるゲーム（守りなし）をおこなう</p> <p>○どうしたらうまくボールをねらったところに投げたり捕ったりできるか発表させる。</p>	<p>【知・技】</p> <p>①②：観察</p> <p>【思・判・表】</p> <p>①②③：観察</p> <p>【主体的】</p> <p>①②④：観察</p>
<p>投げたり捕ったりを続けてできるようになる(2)</p>	<p>投げたり捕ったりを続けてできるようになる。</p> <p>○ボール操作する技能を身に付けるための補助運動をおこなう</p> <p>○連続して投げる捕る技能を確認してゲーム（守りあり）をおこなう。</p>	<p>【知・技】</p> <p>①②：観察</p> <p>【思・判・表】</p> <p>②③：観察</p> <p>【主体的】</p> <p>①②④：観察</p>

	<p>・連続して投げる捕る技能</p> <p>【捕る人】 投げる人の方を向いてボールをよく見て構える。</p> <p>【投げる人】 投げるときに捕る人がいることを確認してなげる</p> <p>○どうしたら続けてうまく投げたり捕ったりできるか発表させる。</p>	
<p>ゲームの中でパスが使えるようになるう(1)</p> <p>【本時】</p>	<p>ボールを捕ったり投げたりしてパスが使えるようになる。</p> <p>○ボール操作する技能を身に付けるための補助運動をおこなう</p> <p>○パスが上手くできる技能とゲームをおこなう</p> <p>パスが上手くできる技能(しっかりボールを見る。捕ってからすばやく投げる)を確認してシュートボールをおこなう</p> <p>○どうしたら上手くできるかチームで話し合いまた、練習やゲームを行う</p>	<p>【知・技】 ②③：観察</p> <p>【思・判・表】 ②③：観察</p> <p>【主体的】 ②③④：観察</p>
<p>今までの学習を生かしてシュートゲームを楽しもう(1)</p>	<p>みんなとシュートゲームを楽しむことができる。</p> <p>○シュートゲーム大会をおこなう。</p>	<p>【主体的】 ②③⑤：観察</p>



6. 本時案 (7 / 8)

- (1) 題目 ゲームの中でパスを使うと相手の守りを交わしてボールが的に当たりやすいか考えよう
- (2) 主眼 投げる捕る技術の練習を通して動きながらボールを投げたり捕ったりすることでパスを使うことができる。
- (3) 展開

過程	学習活動	時間	教師の指導・支援	評価等
はじめ	1. 準備運動をする。	3	○準備体操・	
	2. 補強運動をする。	10	○サーキット、補強（柔軟、筋力）運動	
もとめる	3. 補助運動	5	○投げる捕る技術を高めるための運動をする。 ・個人でゴールを高く投げてキャッチ ・2人でキャッチボール	
	4. めあての確認	3		
まもりをかわすほうほうをかんがえて、ボールをまどにたくさんあてよう。				
パスをつかうと、まもりをかわしてボールがまどにあたりやすいだろうか				
			○めあてを意識して学習に取り組めるようにながす。	
ふかめる	5. ゲームをする。	20	○場の準備をする。 2年生がポートボール台と箱を用意する。 ○ゲームの進め方の確認をする。 ○4カ所でゲームを行う。 ・赤1班—白1班 ・赤2班—白2班 ・赤3班—白3班 ・赤4班—白4班 <ルール> ・時間2分 ・攻め4人～5人 ・守り2人～3人（1分たったら守り交代） ・円の外側（赤いライン）からの的をめがけてボールを投げる ・守りは赤いラインと黄色いラインの間で的にボールが当たらないように守る ・落とす的は、的を当てて落とす人が台にのせる ・守りがボールを捕ったらすぐに攻めの人にボールをわたす。	○ボールゲームの簡単な操作やボールを持たない時の動きができる。（知・技）
	6. 交流する。		○どうしたら、うまくパスを使つて的に当たら	

ふかめる			れるか発表させる。 ・動きながらパスを的をねらう。 ・ボール捕ったらすぐにパスをする。 ・右や左に動いてパスを的をねらう。 ○発表を聞いてもう一度ゲームをする。	
まとめる	7. まとめ	4	○まとめをする ・試合が終わっての感想を出させまとめる。 <div data-bbox="319 611 1254 725" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ボールをすばやくなげたりとったり、うごいたりしてパスをつかうと、まもりをかわしてまとにあたりやすい。 </div> <div data-bbox="440 752 1217 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> パスをつうと、まもりをかわせてまとにあたりやすい。 </div> ○道具の片付けをする。 ○次時の学習の確認	○順番や規則を守り、だれとでも仲良くしようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）

11月30日互見授業 体育科 単元名 「ボールなげゲーム」

1 課題（見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか。）

- ・敵が目の前にいても強引にボールを的に当てようとする子がいた。
- ・ボールを投げずに、走って手渡しに行く子もいた。
⇒めあてと違う。
- ・パスをまわして、的に当てようとしている子
- ・教師が「分かった？」と確認したときに「はい。」という返事があった。
- ・課題提示後、「パスを使うとは？」の問いかけに2人がすぐに答えた。
- ・2年生がやって見せたときに、見ている子どもたちから「ああ」という反応があった。
⇒課題を引き受けている。

めあて、課題の提示に少し時間がかかってしまったけれど、多くの補強運動で本時の課題へ入りやすかったと思う。課題も有効的で分かりやすかった。

めあてや課題を提示したときに、子どもたちが言葉としてめあてや課題を理解していても、実際に活動してみると引き受けていない子どもがいるので、より学習内容を焦点化した課題にするとよい。「どんなパスがいいか」「何回パスが通ったか」など。

2 交流活動

(1) 立ち位置をはっきりさせ、考えをもつことができたか。

- ・ D. S, M, M, K, K…考えをもち、友だちに伝えていた。

「守りが見ていないところに投げる」「パスを出してもとられるときがあつて難しかった。」「守りを予想して動く」「パスを回して相手を疲れさせる」

- ・ 「へイ」「パス」など声かけをする子どももいた。
 - ・ 活動を前後半に分け、前半の後の中間評価にてパスを使う工夫がたくさん出された。
- ⇒ 「パスの工夫」について考えを持っていた。

(2) 考えを広げた (3) 考えを深めた (4) 考えを高めた

- ・ 初めは、パスを回していたがゲームに夢中になりパスを忘れてしまう場面もあった。
 - ・ 中には、パスをしないで見方の人に持っていく子もいた。
 - ・ 教師の「パス、パス、パス」の声かけで気づき、味方に声をかけることができていた。
 - ・ D. S 「パス、パス」という声が大きくなった。
 - ・ 前半パスを出していなかった子が後半に声をかけ始めた。
 - ・ D. A 「パス、パス」、T. S 「りんちゃん、なげてー」
 - ・ ボールを持たない動きを1人1人がよく考えていた。2年Y. MとY. Rの2人は、パスがつながるよう、走ってフリーの状態でパスをするなど、知・技の評価ができる場面があった。
 - ・ 2年生を中心にパスがつながるよう、助言する姿も見られた。
 - ・ 今までの経験値としてボールの扱いに慣れている子は、相手に対する戦術的なことも試みていた。
- ⇒ 友だちの意見を意識して投げている子どももいた。

中間評価の振り返りを通して、共有した「パスの工夫」がそれぞれの子に取り入れられ、考えを広げたり高めたりできていた。

やってみて反省、次にやってみて反省とすることで技術向上が見られた。

技術面に関しては、子どもたちの経験値による差が大きいが、交流活動を取り入れ、友だちの意見を聞いて工夫することで、向上していくと思われる。

上手にパスをしていた子を見つけさせたり、パスの仕方を紹介したりするのもいい。

3 振り返り (次の課題につながったか分かったことなどをまとめているか)

- ・ T. E…「むずかしかった」

- ・ 個人差もあり、全員がめあて達成とはいかないが、ボールをとる、投げるなど基本的な運動の積み重ねで、動きも考えも変わっていく (向上していく) と思った。

振り返りでは、全員が発表したわけではないが、課題について自分たちなりに活動を振り返ることができていた。次時へ意欲をもって授業を終えられたと思う。

第2学年 生活科学習指導案

日時 令和2年12月3日

指導者 高松 睦美

1 単元名

「みんなでつかう まちのしせつ」～知りたい 行きたい 市みん図書かん～

(内容(4)「公共物や公共施設の利用」)

2 租税教育とのかかわり

・税の学習…みんなで使うものを大切にし、約束やきまりを守ることができる。

3 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、前単元「まちたんけん」で地域に出かけ、和間地区の場所や人とのかかわりを知る活動を通して、自分たちの地域にはそれぞれの地区に公民館があること、地域いろんな人々が利用していることや自分たちの生活にも関わっていることなどを知った。自分たちの住んでいる地域「和間」には、自分たちの生活に関わって多くの場所や地域の人々の支えがあることに気づくことができた。

宇佐市民図書館は、市の中心部にあり、多くの児童が利用した経験があるが、公共の意識は低い。毎月1～2回学校にやってくる移動図書館「ほんの森号」は好きでよく利用している児童も多い。1年生の時に利用案内を受けているものの、市民図書館の利用とつながった意識を持つ子は少ない。また、校区外の施設ということもあり、利用したことがある児童は8割だが1、2度行ったことがある程度で、図書館の様子や、利用者を知っている児童は少ない。また、学校図書館ではルールやマナーを意識して行動する子もいるが、自分事として捉えられず守れていない子もいる。

交流する学習場面では、発表できる子どもが固定化しており、友達と話し合ったり自分の考えを進んで伝えたりすることが苦手な子が多い。「まちたんけんで見つけたステキを友だちにつたえよう」でも、活動は積極的に行う反面、気づいたことを交流する場では自分の言葉で説明できない児童も多く、考えたことや分かったことを自分の言葉でまとめ、相手に伝えることに抵抗がある。まず、自分の考えをしっかりと持つこと、自信をもって伝えることを課題として取り組む必要がある。

(2) 教材について

本単元では、学習指導要領解説生活編の内容(4)「公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それを大切に、安全に気をつけて正しく利用することができるようにする。」を受けて設定したものである。

子どもたちの身の回りには、公園や公民館以外にも文化会館や博物館、駅などたくさんの公共施設が存在している。そこには、誰もが気持ちよく使うための決まりがあり、そこで働く人々がいる。図書館は、子ども達が本を大好きでよく利用することから、より関心を持って取り組むことができる学習材である。そこで、公共施設である地域の図書館へ行き、施設を見学、利用する活動を通して、公共施設はいろんな人が使う施設であり、そこにある本や施設はみんなで使うものであること、また、図書館を支えている人々がいることが分かり、図書館に愛着をもち、大切に使ったり正しく利用したりしようとする態度を育て

ることができると思われる。学校図書館での自らのマナーをふりかえることにもつながる。

宇佐市立図書館は市の中心部に位置し、年間を通してたくさんの来館者がある公共施設である。子ども向けスペースや蔵書が充実しており、本の読み聞かせの実施、映画の観覧、移動図書館（ほんの森号）による貸し出しも行うなど、本に親しむための普及啓発活動にも力を入れている。館内にはソファやいす、テーブルを置いての読書スペースやおすすめの本コーナーの配置、わかりやすい本の分類・配置、ユニバーサルデザインの本や利用しやすい施設、館内利用の約束の掲示等、子どもがたくさんの気付きをもちやすい。

また、図書館を利用することは興味、関心を強く持つこともでき、気付いたことを自分の言葉でまとめ、説明したり考えたことやわかったことを自分の言葉で伝えたりする事に抵抗少なく取り組めるのではないかと考える。

（3）指導について

導入では、和間小学校では、月に一、二度、移動図書館「ほんの森号」が来て、子どもたちはよく利用していることから、どこから本を運んでくるのか、市民図書館にはどのくらい本があるのかなど、市立図書館に行って利用してみたいという関心を持たせる。そして、学校図書館とも比べながら、「宇佐市民図書館には、どんな『ひみつ』があるのかな。」と投げかけ、本だけではなく、展示の仕方やいろんなコーナー、環境や施設の使いやすさ、職員の方の働きなど、様々な工夫を観察する意識を持たせてから、施設の見学と利用体験をさせたい。見学後に、撮ってきた写真を見ながらふりかえり、すごいなあ、すてきだなと気付いた所を「ひみつ」として観察カードに絵や言葉でかかせる。

二次では、見つけた「ひみつ」みんなで伝えあう場を持つ。発表の際はペアで確かめた後、全体で交流する。その中では、それぞれの気づきを同じもので分類し、写真等も一緒に掲示しながら視覚的に比較・関連が見やすいように位置付ける。そして、出し合った「ひみつ」のよさを考えさせ、利用者の使いやすさにつながっていることに気付かせていく。その際、イメージマップを使って自分の考えを持たせ、自分の見つけた「ひみつ」と同じグループで交流し、全体で交流する。本時では、それらの「ひみつ」のよさを確認し、なぜ図書館にはたくさんの「ひみつ」があるのかを考えさせ、ペアや全体で交流していく。施設や物などに観点が当たっていると思われるので、最後に、図書館で働く方の思いや願いを聞くことによって、図書館で支えている人がいることで誰もが気持ちよく利用しやすいようにいろんな工夫をしているということやその思い、願いに気付かせていきたい。そして、大変なことや困っていることもあることから、図書館という公共施設にはみんなが気持ちよく利用するためのルールやマナーがあることや自分たちの生活は多くの人に支えられていること、自分達からルールやマナーを守ることの大切さをふりかえらせていきたい。

宇佐市民図書館は校区外の施設であるため、保護者と一緒に行かなければならない。そのため、学んだことをパンフレットにして保護者に伝えるよう設定し、学習後も愛着を持って保護者と一緒を利用していきたいと思えるようにする。また、自分たちの学校図書館での利用の仕方についてもふりかえり、進んでマナーやルールを守って、大切に安全に使おうとするようにしていきたい。

4 単元の目標

宇佐市民図書館の利用や見学体験を通して、誰もが利用しやすく本に親しみを持つように様々な工夫がされているよさを感じたり働きを捉えたりする事ができ、身の回りにはみんなで使うものがあることや、それらを支えている人々がいることなどに気付くとともに、それらを大切にし、正しく安全に利用しようとする事ができるようにする。

5 単元の評価規準（小単元における評価規準）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	公共物や公共施設の利用を通して、身の回りにはみんなで使う物があることや、それらを支えている人々がいることに気付いている。	公共物や公共施設の利用を通して、公共物や公共施設のよさを感じたり、働きを捉えたりしている。	公共物や公共施設の利用を通して、公共物や公共施設を大切にし、正しく安全に利用しようとしている。
小単元における評価規準	1 ①市民図書館は公共施設であり、利用するためにはルールやマナーがあることに気付いている。	①市民図書館を利用したことをふりかえり、気付いたことについて考え、友達と話し合っている。	①市民図書館の利用に関心を持ち、正しく安全に利用しようとしている。
	2 ②市民図書館には、利用者が使いやすいするための工夫や、それを支えている人々がいることに気付いている。 ③図書館を利用すると、自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付いている。	②市民図書館を利用して気付いた工夫と利用者の使いやすさの関連に着目して、ひみつのよさを考え、表現している。	②市民図書館を利用して気付いたことを自分なりに伝えようとしている。
	3 ④市民図書館を利用する際、みんなで使うものを大切に正しく利用する事ができるようになったことに気付いている。	③市民図書館の利用を通して感じた公共物や公共施設のよさや捉えた働きをまとめ、知らせている。	③宇佐市民図書館を利用する際、愛着を持って、正しく安全に利用しようとしている。



6 指導と評価の計画 (全時数 1 1 時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	評価規準と 評価方法
図書かんに 行こう (6)	<p>〔小単元1の目標〕 市民図書館を利用する中で、図書館は自分たちだけでなく、さまざまな人が使う場所であることが分かり、安全に気を付けて、正しく利用することができるようにする。</p> <p>○市民図書館などの公共施設を利用する際のルールやマナーについて確認し、出かけるための準備をする。(1)</p> <p>○市民図書館に出かけ、本を読んだり、借りたりするなどして、実際に図書館を利用する。(3)</p> <p>○学校に戻り、図書館を利用したことを振り返り、気付いたことなどを記録カードに書く。(2)</p>	<p>【知】① 発言・行動観察 記録カード</p> <p>【思】① 発言・行動観察 記録カード</p> <p>【態】① 発言・行動観察 記録カード</p>
図書かんのひ みつのわけを 考えよう(4)	<p>〔小単元2の目標〕 市民図書館を利用して気付いたことを伝え合い、図書館司書の方の話聞くことにより、図書館を支えている人がいることや図書館にはみんなが気持ちよく利用できるためのさまざまな工夫があることに気付く。</p> <p>○気付いたことを伝え合う。(1)</p> <p>○「ひみつ」のよさを話し合う。(1)</p> <p>○「ひみつ」がなぜあるのか話し合い、図書館を支えている人がいることで誰もが利用しやすくなっていることに気付く。 (1) 本時</p> <p>○話を聞いて、自分達をふりかえり、お礼の手紙を書く。(1)</p>	<p>【知】②③ 発言・作品</p> <p>【思】② 作品・発言</p> <p>【態】② 作品・発言</p>
行って みよ う つかって みよう(1) ・時間外	<p>〔小単元3の目標〕 宇佐市民図書館を利用してわかったことをお家の方に伝え、繰り返し、安全に気を付けて、正しく利用することができる。</p> <p>○分かったことをパンフレットにまとめる。(1)</p> <p>○家の人に見せ、伝える。家の人と一緒に利用する。(時間外)</p> <p>○利用した様子を伝え合う。(時間外)</p>	<p>【知】④ 発言</p> <p>【思】③ 発言</p> <p>【態】③ 発言</p>

7 本時の展開 (9時間/11時間)

- (1) 題目 市みん図書かんで見つけた「ひみつ」のよさを考えよう。
 (2) 主眼 図書館はみんなでするものであり、図書館を支えている人がいることで誰もが利用しやすくなっていることを、市民図書館を利用して見つけた図書館のひみつのよさを考え、図書館で働く方の話を聞くことを通して、気付くことができる。

(2) 展開

難	学習活動	欄	教師の指導・支援	評価等
つかむ	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	5	○前時までに市民図書館を利用して見つけた「ひみつ」を観察カードにかき、伝えあったことをふりかえる。	
	市みん図書かんで見つけた「ひみつ」のよさを考えよう。			
もとめる	2 それぞれが見つけた「ひみつ」のよさを発表する。	10	○前時に考えた、それぞれの内容について確認する。	
	どうして「ひみつ」が たくさんあるのかな。			
ふかめる	3 「ひみつ」がたくさんある理由を考える。	20	○「ひみつ」がたくさんある理由を考え、ワークシートに書かせる。 ・ワークシートに書いたら、ホワイトボードに書くようにさせる。 【個】理由を考えにくい児童にはそれぞれのひみつのよさとそれがなかったときはどうかと考えさせる。	
	4 考えを交流する。		○考えを話し合わせる。 ・ペア交流 ・全体交流 ・利用者が本に親しみ、利用しやすいようにしている工夫であるという考えに焦点化する。 ・友達の意見を聞いてどう思ったかを聞いて焦点化させる。 ・「ひみつ」は工夫であることをおさえる。 ・このたくさんのお話を聞いて、お世話をしているのはだれかを聞き、職員の方の話(教師が読む)を聞かせる。	【思】② 市民図書館を利用して気付いた工夫(見つけた「ひみつ」と利用者の使いやすさの関連に着目して、ひみつのよさを考えている。 {発言、ワークシート}



まとめる	4まとめ、振り返る。	10	<p>○話を聞いてわかったことを問い、板書する。確認しながらまとめる。</p> <p>・誰もが利用しやすいように工夫していることや、多くの人に本に親しんでもらいたいという願いがあるということに気付かせる。</p>	<p>【知】②</p> <p>市民図書館には、利用者が使いやすくするための工夫や、それを支えている人々がいることに気付いている。(壁、ワークシート)</p>
	<p>「ひみつ」がたくさんあるのは、みんながりようしやいようにするため多くの人にいろんな本に親しんでもらうため。</p>			
	<p>○図書館の方の願いと「ひみつ」を確認し、ふりかえりをさせる。</p>			
	<p>「ひみつ」のよさは いろんな人が 気もちよくりようするためのくふう。 図書かんではたらく人がたくさんくふうしてくれている。</p>			
			<p>○次時は職員の方のお話を聞いて、自分たちはどうしたいかを考え、お手紙を書いていくことを伝える。</p>	

1 2月3日互見授業 生活科

単元名「みんなでつかう まちのしせつ」～知りたい いきたい 市みん図書館～

1 課題（見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか）

- ・前時までには図書館で気付いたことをカードに書き発表していた。
- ・ワークシート配布後どの子もすぐ自分の考えを書き始めた。
- ・書けない子も書かないのではなく一生懸命考え、書いたり消したりしていた。
(結果的に書けなかった・・・塩崎)
- ・便利に借りられるという視点で書く子が多かった。前時までには秘密は10個見つかり、まとめられていたことが、課題を受け入れるためにはよかった。
- ・課題提示後、すぐ読むなど意欲的に捉えていた。めあての「ひみつ」をさらに追求する課題設定であったと思う。
- ・課題に対し困りをもつ子が数名いたが、その子たちも最後には考えを持てたり、友だちの意見を取り入れたりしていた。
- ・前時の振り返りで見ていた写真を交流でも活用できるとよかった。または、横に掲示している学校との比較からも子どもの発言があると、広がりがあった。

子どもたちが課題を引き受けていた。

「便利」や「生活を豊か（高める）に」収束するよう、「利用する人も図書館の人もうれしくなるためには？」や「ひみつは何のために」等の課題も考えられる。

2 交流活動

(1) 立ち位置をはっきりさせ、考えをもつことができたか

- ・ほぼ全員が考えをよく持っていた。

(2) 考えを広げた (3) 考えを深めた (4) 考えを高めた

- ・Y, R…平和という言葉を使って、図書館が自分たちの生活を豊かにするものと捉えている。友だちの意見を聞いて、本を大切にすることにも考えに入ってきた。(高まった)

- ・K, K…みんながいっぱい書いていたから、僕が知らなかったことや忘れていたことを思い出した。

- ・D, Aの発表の後「うん、いいね。」などの声。

- ・広げたり深めたり高めたりするには、もう少し交流活動を広げてもよいと思いました。でも、「なのさんの考えがいいと思いました。」という発言も聞かれたので、全体交流で考えを比べられたと思う。「できないことも簡単にできる。」という意見だった子ども→なのさんの意見「秘密がないと手間がかかる」

- ・友だちの意見を聞いて付け加えた子どももいた。

- ・ペア交流のときに友だちの話を聞けていた。

- ・1人の意見に対して、「似ています」と次につながられる。

- ・交流の仕方がしっかりしている (立つ→聞いて反応→感想→考え)

- ・たくさん人が利用するから、いろんな人が使えるように、人が本を探すのは、大変だから機械がしてくれるなど個からみんなを意識した考えが出ていた。

- ・ワークシート交流後、ホワイトボードを書く段階で多くの子が追記・書き直しをしていた。

⇒多くの子どもたちで考えの深まり、広がり、高まりが見られた。

友だち同士で認め合いができています。

友だちの考えを聞いて納得している子どももいた。

意見は2種類と思われる。

- ・借りる人のための「便利さ」に代表される秘密がたくさんある。子どもは本を大切に、ルールを守ることに意識がいつている。

- ・「平和」や「いい気持ち」「楽しめる」等の言葉に代表される心豊かになる図書館という意識がある。

どちらの立場もお互いに受け入れて、高められる授業にもっていくとよかった。

(5) その他変容のあった人

- ・T, S…初めの考えに自信がなかったが、友だちの意見を聞いて、自分の考えと共通していることを見つけて、自信をもってまとめを発表した。振り返りにもつながっていた。(変容した)

- ・D, A…言葉足らずではあるが、「いい気持ちになる」という点で、図書館の存在意義に意識が向いている。クラスに広げたい意見である。(気付いた)

「認め合う」ことができています。友だちの意見を聞いて、自分の意見を大切にしながら、自分の意見を変えていく姿多く見られた。高めるという段階では、意見が分かれるが、今後も高めるための交流活動の工夫をしていく必要がある。

3 振り返り（次の課題につながったか 分かったことなどをまとめているか）

- ・本を大切にする、ルールを守るなどの振り返りが多かった。→おうちの人に伝えることで、自分もおうちの人とルールを守りながら、もっと本を読みたいという思いになってくれたらいいと思う。
- ・島津さんのお手紙が、子どもたちの「ひみつ」を裏付けるものになった。
- ・「これからは～」や「本を大切に」など、手紙を聞いて分かったことをまとめられていた。
- ・職員の方の話を聞いて、次から本を借りるときは「本を大切に扱う」と言っていた。
- ・島津さんの話（手紙）を聞いてほとんどの子が「本を大切にする」「迷惑かけない」と書いていた。
- ・D. A・・・「しずかにする」のように、普段の自分の具体的な姿からの反省もあった。
- ・T. S・・・まとめの言葉を発表 初めの意見「寄付してくれる」から変化→授業中の発表は少なかったが、話の流れから考えを変えたと思われる。

⇒図書館職員の方への願いに迫れるよう手紙を聞いた感想発表は、かなり有効だったと思う。

友だちの発言を聞いて、自分の気持ちが変わった子が何人もいてすばらしい。

図書館の本は、みんなが使うもの、サービスはみんなのために行うものと意識できるようになっていた。

次時に向け、自分たちの図書館利用マナーについて意識が向いている。

友だちの意見や島津さんの話から、図書館はみんなでするもの、図書館を支えている人がいること、誰もが利用しやすくなっていることを理解していることが、子どもから出されたまとめの言葉から分かる。次時に手紙を書くという活動につながったと思われる。

「ひみつ」をまとめるための手立てを「かんたん」「便利」に注目し、利用しやすい→「たくさんの人に利用してもらう工夫」「利用者が便利にようにする工夫」と2つにまとめる。

あるいは、課題を学校図書館と比較させる。

第5学年 理科学習指導案

令和2年12月4日3・4校時

指導者 佐々木 良輔

1 単元名 もののとけ方

2 単元設定の理由

(1) 児童生徒について

児童はこれまで、天気の変化や生物の成長・発生、地層のでき方等について学習している。メダカやインゲンマメの観察・実験では予想をもとにして「変える条件」「変えない条件」を考えながら実験方法を考え、実験・観察する経験をしてきた。ただし新型コロナウイルス流行による臨時休業で授業時数がひっ迫していたことや専科であるために授業時数の柔軟な確保が難しいことなどのため、実験の結果は別に用意したり、映像資料を見せたりすることが多かった。また、同様の理由から、天気の学習ではあらかじめ教師が集めてきた資料をもとに学習した。このためクラス皆でおなじものを観察する機会が多かった。

(2) 教材（題材）について

本単元は、第3学年で学習した「物と重さ」の内容を踏まえて、「粒子」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「粒子の保存性」にかかわるものであり、第6学年「水溶液の性質」の学習につながるものである。本単元では水溶液の性質を実験しながら学習していく。水溶液の学習やその操作は児童にとってまったく初めてであり、児童の関心を集めるだろう。さらに動植物の発生・成長の実験と違って結果がすぐに出てくるので、児童の関心を持続させやすい。実験では、メスシリンダーや電子天秤、ろ過機、加熱器具といった実験器具を使うが、これらは今後の理科の実験でも何度も使うことになる器具との出会いでもあるので、安全で適切な使用法をきちんと指導する必要がある。また、使用する薬品は食塩やミョウバンといった普段の生活でも目にする機会のある薬品であり、日常生活に還元していきやすい内容であるといえる。

(2) 指導について

5年生では観察・実験を計画的に行う条件制御の能力が必要とされる。本単元でも、確かめたいことは何か、「変える条件」「変えない条件」はそれぞれ何かといったことを児童に投げかけ、実験の仕方を考えさせるようにしたい。予想や考察の段階では児童が自分の考えを持つ時間だけでなく、お互いの考えを交流したり、聞きあったりする時間を確保することで、うまく考えをまとめられない児童でも無理なく考えを整理していけるように工夫したい。ただし、考えの交流にあたっては、児童の座席配置やマスクの着用徹底など、感染防止措置に配慮していきたい。

3 単元の目標

- 物が水に溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら、物の溶け方の規則性を調べさせる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けさせるとともに、予想や仮説を基に、解決の方法を予想する力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。</p> <p>② 物が水に溶ける量には、限度があること理解している。</p> <p>③ 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶けるものによって違うことを理解している。</p> <p>④ 溶けている物を取り出すことができることを理解している。</p> <p>⑤ 物の溶け方について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</p>	<p>① 物の溶け方について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>② 物の溶け方について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>③ 物の溶け方について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>① 物の溶け方についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</p> <p>② 物の溶け方について学んだことを学習や生活に活かそうとしている。</p>

5 指導と評価の計画（12時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	評価規準と評価方法
物が水に溶ける様子（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・薬品の扱い方を知る。 ・食塩を溶かして、気づいたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の溶け方について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現するなどして問題解決している。（発言分析・記録分析）
水溶液の重さ（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・水に物を溶かした後の水溶液の重さはどうなるかを調べる方法について、計画を立てる。 ・電子天秤の使い方を知る。 ・溶かす前の全体の重さと溶かした後の全体の重さを比べながら調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の溶け方について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。（発言分析・記録分析） ・物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。（発言分析・記録分析）
深めよう（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・「どのようにとけているか見てみよう！」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の溶け方についての事物・現象に進んで関わり、粘り強

<p>水に溶ける物の量 (2)【本時】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物が水に溶ける量には限りがあるかを調べる方法について、計画を立てる。 ・物が水に溶ける量を、条件を整えて調べる。 	<p>く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。(行動観察・発言分析・記録分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物が水に溶ける量には、限度があること理解している。(発言分析・記録分析)
<p>溶ける量を増やす方法 (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食塩やミョウバンの溶ける量を増やすには、どうすればよいかを調べる方法について、計画を立てる。 ・水の量や水溶液の温度を変えたときの物が水に溶ける量を、条件を整えて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の溶け方について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。(発言分析・記録分析) ・物が水に溶ける量は水の温度や量、溶けるものによって違うことを理解している。(発言分析・記録分析)
<p>溶かした物の取り出し方 (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ろ過の仕方を知る。 ・実験[イ]の水溶液をろ過する。 ・水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出すことはできるかを調べる方法について、計画を立てる。 ・駒込ピペットの使い方を知る。 ・水の量や水溶液の温度と、溶けている物が出てくることの間係を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・溶けている物を取り出すことができることを理解している。(発言分析・記録分析)
<p>深めよう (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「大きなミョウバンをつくってみよう！」を行う。 	<p>物の溶け方について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。(行動観察・記録分析)</p>
<p>確かめよう、学んだことを活かそう (1)</p>		<p>物の溶け方について学んだことを学習や生活に活かそうとしている。(行動観察・発言分析・記録分析)</p>

6. 本時案 (5・6/12)

(1) 題目 水に溶ける物の量

(2) 主眼 物が水に溶ける量には限度があることを、食塩とミョウバンを水に溶けなくなるまで溶かす実験をすることで理解する。

(3) 展開

過程	学習活動	時間	教師の指導・支援	評価等
つかむ	1. 前時までの学習を振り返り、水に溶かせるものの量について課題を持つ。	10	<p style="text-align: center;">もののとけ方について調べよう</p> <p>○水に食塩を溶かして重さを図った実験を振り返らせる。 ・「水溶液」の語を確認する。 ・児童の発言をもとに、コップの水に食塩をどこまで溶かすことができると思うか問いかけ、学習ノートの「学習の前に」を記入させる。</p> <p style="text-align: center;">ものが水にとける量には限りがあるのだろうか。</p>	
もとめる	2. 課題についての予想をもつとともに、予想を確かめる方法を考える。	15	<p>○課題に対する予想を考えさせる。 ・一分間で自分の考えを持たせ、学習ノートの「自分の予想」に書かせる。そのうち、同じテーブルの中で順番に発表し合わせ、自分以外の考えから自分と違う考えを一つ選んで「友達の予想」に書かせる。違う考えがなければ、さらにそのあと何人か全体で発表させ、その時に「友達の考え」を書かせる。</p> <p>○予想を確かめる方法について、実験するうえで「変える条件」「変えない条件」を考えさせる。 ・考えが出ない時には、「確かめたいこと」は「変える条件」とし、それ以外を「変えない条件」とすることを振り返らせる。 ・出された意見を整理し、実験方法をまとめて、学習ノートに書かせる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">決まった量の水に食塩を少しずつ溶かしていき、どこまで溶けるか調べる。</p> <p>・「少しずつ」については、5gずつ溶かすことを伝える。 ・食塩以外についても調べるため、ミョウバンでも同じように水にとける量を調べることを伝える。</p>	
ふかめる	3. 実験し、結果からどのようなことがいえるか考察する。	5	<p>○テーブルごとに以下の実験器具を配布する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">メスシリンダー1本 プラスチックカップ 保護メガネ人数分 ビーカー大小各1個ずつ ガラス棒1本 スポイト1個 黒い紙2枚 5gごとに小分けした食塩4パック 5gごとに小分けしたミョウバン4パック</p>	<p>・物が水に溶ける量には、限度があること理解している。(発言分析・記録分析)</p>
		15	<p>○実験の手順および器具の使用方法を確認する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">1) メスシリンダーで水50mLを測り、2つのビーカーに入れる。 2) 小さいビーカーに食塩を5gずつ加え、ガラス棒でかきまぜる。計20gまで溶けるかどうか確かめ、学習ノートに結果を記入する。 3) 大きいビーカーで、同様に5gずつミョウバンを溶かして結果を学習ノートに記入する。</p>	

まとめる	4. わかったことをまとめるとともに、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに保護メガネをかけさせる。 ・メスシリンダーは全員に使い方を説明し、一斉に使用させる。その際、目盛りの読み方を指導する。 ・ミョウバンは溶けにくいのでよく混ぜるよう指導する。 <p>15 ○実験結果からいえることやわかったことを考察させ、学習ノートに書かせる。うまく書けない児童には、表に表した実験結果を文章化するよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想の際と同じやりかたで、考察を交流させる。 <p>5 ○課題を確認し、わかったことをまとめる。</p>	
	<p>ものが決まった量の水にとける量には限りがある。 ものによって決まった量の水にとける量はちがう。</p> <p>10 ○めあてを再確認し、本時の学習を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になったことやもっと調べたいこと、疑問に思ったこと等を出し合わせる。 <p>水の量を変えて試したい。 もっと溶かすにはどうしたらいいか？ ほかのものはどのくらい溶けるか？</p>		



1 2月4日互見授業 理科

単元名「もののとけ方」

1 課題（見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか）

- ・前時の時間、水に食塩を溶かしてから課題を提示したので、この課題でよかった。「限りがある」「限りがない」等、理由をつけて言えていたのは、前時の活動ができていたからだと思う。
- ・いくらでも溶けると思っている子が多かった。前の実験で、塩が見えなくなったことが根拠のようであった。実験で確かめようとしていた。
- ・前時の学習から本時へとつながっている。E.A…前時との比較「水の量は、同じですか？」→全員で確認したのがよかった。
- ・「限りがあるか」に対して、「いつかは、限りがある」「限りがない」と正対した考えを出す。実験の変えるところ、変えないところを確認する発問は、課題追及に向かっている。
- ・ミョウバンが溶けた班があり、気になりどの子も意欲的に取り組み、めあてに向かう効果的な課題であった。
- ・自分と友だちの予想を把握して、どちらが正しいか確かめるために、どのグループも一生懸命課題解決をしていた。予想や経験をもとに訳を書けている子もいた。
- ・課題に対して全員が書けている。予想（自分の考え）が書けない。…K.M、D.Y
- ・課題に沿った答え方を要求している。子どもの答えがぶれず、分かりやすい。

子どもたちが課題を引き受けていた。

※教師の細かな理科用語での説明、生活につなげて話すところがよかった。

※正しい言葉を使うよう指導している。

2 交流活動

(1) 立ち位置をはっきりさせ、考えをもつことができたか

- ・多くの子は、自分の考え（予想）をもっていた。
- ・K.M…自分の考えはもてないが、友だちの意見を書くことができていた。（賛成意見）
- ・Y.D…「混ぜれば溶けるかも」水の量を減らすと溶ける量も減る。ある程度の水は必要という意見。
- ・自分の考え、友だちの考えの交流、ペアで確認

(2) 考えを広げた (3) 考えを深めた (4) 考えを高めた

- ・実験を通して、ペアでのつぶやきが聞こえた。つぶやきの中で、自分の考えや根拠が明らかになっていく姿が見られた。
- ・課題に正対して「限りがある」と答えた班、溶けない、溶けるでとどまる班があったが、全員がよく実験できていた。
- ・K.R、T.Y…実験の結果から考えを変えた。
- ・N.K…「時間をかけたら溶けると思う。」実験の結果から考察するが考えは変わらなかった。
→変容が見られないときはどうアプローチすればよいのか。
- ・自分と違う考えを聞くことで考えが揺さぶられていたように見えた。
→自信をもって考えていたが、友だちの考えを聞き、「どうなのかな」とつぶやいていた。

- ・自分の考えと違う友だちの考えを書くことによって、違う立場を捉えられる。
→学習がパターン化しているので、迷わないで、書けていた。違う意見を聞いて、考えが変わったのかどうかは分からなかった。
- ・D.YとM.Kは同じ班で「溶ける」「溶けない」と予想が違っていたことで、食塩が水に溶ける少しの変化に注目したり、「ちょっとは溶けたけど、これ以上は進まないな。」と正しく実験しようとする何度にもかき混ぜたり、時間をかけて取り組んでいたのも、結果に納得をすることができた。
- ・N.Kは、いくらでも溶けると予想をしていた。実験後も時間をかけたら溶けると思うと考えを書いていた。ミョウバンなど溶けにくいものもあったので、結果には納得できていなかったかもしれない。
- ・友だちの考えを聞き合う工夫がある。(意識的に違う考えを書かせる。) I.H「確かに違うかもしれんな。」→考えを変えよう→変えた考えを発表…自分と違う考えを書かせることで、広がりや深まりが生まれる。
- ・考えの変化をどう見取るか。
- ・話し合いの仕方のカードがあり、自分の考えを持ち、交流ができていた。

理科においては、実験を通して、同じグループの友だちと話し合ったり、つぶやいたりすることで友だちの考えを取り入れたり、自分の考えを変えたり、深めたりする姿を見ることができる。日常の学習ルールや実験のルールの徹底が大切である。考えの変容が見られるようなノートの書き方の工夫も必要ではないか。

※実験の際は机上をすっきりさせること

※結果と分かったことの区別は？

※まとめは穴埋めになっていた。既製のノートの是非は？(便利・簡単)→分かりやすいが、子どもの言葉で考えさせることもよい。その他の気付きも工夫して書けるとよい。

3 振り返り(次の課題につながったか 分かったことなどをまとめているか)

- ・N.M…「水ではなく、お湯だったらどうなるのか？」
M.K…「温泉の成分ならお湯ならもっと溶けると思う。」
- ・ミョウバンが溶けにくかったことでお湯で実験してみたいと次の単元につながる発言があった。
- ・H.I…ミョウバンと食塩を混ぜると、溶ける量が変わると思っているのか？
温度や水の量に目が向いた子は、実験から言っているのではないか。次の時、その体験(料理や泥遊び、シャボン玉液などの水に何かを溶かす経験)を話させるとよい。
- ・お湯で、、、という考えから次の課題につながっていた。
- ・振り返りで次にどんなことをしてみたいかなど興味をもった子どもも多く、次の課題につながっていた。M.K…「温泉の成分なのでお湯なら溶けるかも。」

次時につながる発言が出ていた。

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和2年12月15日3校時

指導者 小野 恵祐

1 単元（題材）名 自分たちの暮らしについて知ろう

2 租税教育との関わり

集団の一員…みんなで協力し合ってよりよい集団をつくとともに、様々な集団の中で自分の役割を自覚して行動することができる。

税の学習…税の大切さを理解する。

3 単元（題材）設定の理由

（1）児童生徒について

日常の疑問や課題に意欲的に向き合い、授業では前向きに発言できる児童である。友だちの説明をよく聴いて「わかりました」や「似ています」、「付け加えがあります」と考えをつなげたり深めたりするなど、授業を自分たちの力で前に進めることができる。一方で解き方に悩んでいる児童には、男女問わずやり方を教えたり自分の考えを伝えたりするなど、一緒に課題解決へと向かう姿勢が感じられる。

（2）教材（題材）について

本教材は、宇佐市に昔、宇佐海軍航空隊があったことを学び、税金によって今も多くのもが現存していることを知るものである。宇佐市内の多くの跡地には、税によって支えられて残されているものがあり、それは自分たちの暮らしの身近に存在するものでもあることを本教材では学ぶことができるであろう。

児童は、社会と税との関わりを通して、自分たちが納税者の一人であることを認識し、国民の義務であり税が社会をよりよくするためのものであることを理解している。またさらに、税によって残されている平和に関する現像物や建築物の歴史的背景を伝える活動を通して、税について深く認識しこれからのよりよい未来へ、本教材を通して考えを深めていけることが期待できる。

（3）指導について

私たちの暮らしを支えるもののなかにあるもので税金と関わりのあるものから「税の使われ方」を知り、平和学習と関連させてテーマに沿って課題解決を図っていきたいと考える。身近なものから福祉、教育、公園、病院、警察、消防、ごみ処理場、自衛隊などたくさん出させた後、自分たちに起因している問題や身近な存在を想起させ、平和学習の発展へとつなげていく。

他教科や領域との関連を図りながら、総合的な学びとして充実させていきたいと考えている。

4 単元の目標

地域やまちの暮らしを支える税の役割を理解する活動を通して、税の使われ方や自分たちの身近にあるものや場所を調べさせ、社会の一員としてまた納税者の一人として税との関わり方を考え、社会生活に生かそうとする意欲を高める。

5 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①身の回りの暮らしのサービスについて、福祉施設や公共サービスがあることを知るとともに、税金が深くかかわっていることを理解している。</p> <p>②インターネットや文献、インタビュー等、調べ学習を実施している。</p> <p>③税金の役割は暮らしを支えるとともに私たちの生活にとってかけがえのないものであることに気付いている。</p>	<p>①課題解決に向け計画を立て、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもっている。</p> <p>②必要なことや知りたいことを明確にして調べ学習の仕方を決めている。</p> <p>③税の使われ方について、「宇佐市の市税」から収入と支出とを関連付けて、税がどんな使われ方をしているか、証拠や根拠を見つけ出している。</p>	<p>①地域や社会で暮らす私たちにとって、税の働きが大きな助けや支えになっていることに気づき、広めようとしている。</p> <p>②税金・租税の意味や役割を調べ、積極的に学ぼうとしている。</p> <p>③税が担う役割を発表し、これからの未来に向けて自分たちがどのように社会と関わっていけばよいかを周囲と協力して考えようとしている。</p>

6 指導と評価の計画(34時間)

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	評価規準と評価方法
1. 私たちの暮らしを支えているものを調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会の様子を知り、身の回りの暮らしやサービスについて考えを出し合う。 ・「税金・租税とは何か」という課題を明確にするため暮らしや社会を支えるものの中にある「税の役割」について調べて課題を見つける。 ・パソコンや図書室などを利用して税について調べ学習を行う。 	<p>身近にある税金について調べる。</p> <p>【I pad ノート・ワークシート】身のまわりの暮らしの中で、税とかかわりのあるものについて調べたことをまとめる。</p> <p>【発言内容・ノート】</p>
2. 暮らしを支える「税」について、調べたことを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・税の役割や関わりについて調べたことを話し合う。 ・グループで交流し税とかかわりのある平和にかかわる場所や歴史的背景について調べたことを出し合い交流する。 ・「宇佐市の歳入」から収入と支出をまとめ、どれだけの税があって使われているか、表やグラフなどでまとめる。 	<p>暮らしを支える税について調べ、話し合ったりインタビューしたりしたことを書いている。</p> <p>【発言発表内容・ノート・ワークシート】</p>
3. 税によって現存する宇佐市の平和について発表しよう。	<p>暮らしを支える税には、宇佐市内の平和の現存物や場所と関わりがあることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「税の使われ方」や「税の行方」「宇佐市の暮らし」について、探究的に学習して知ったことや学んだことを振り返る。 ・グループで協力して、これから先へ社会の一員として、また納税者の一人としてどんな未来にしていきたいかを発表する。 	<p>税によって今も現存する平和に関するものや場所について発表したことをまとめる。</p> <p>【話し合った内容・記録メモ】</p> <p>自分たちの暮らしとこれからの税との関わりをまとめたり発表したりする。</p> <p>【発表・模造紙】</p>

7. 本時案 (26 / 34)

《租税教育との関わり》

・ 集団の一員…みんなで協力し合ってよりよい集団をつくとともに、様々な集団の中で自分の役割を自覚して行動することができる。

・ 税の学習…税の大切さを理解する。

(1) 題目 生活を支える税と、平和学習で訪れた場所や物との関係を探ろう。

(2) 主眼 暮らしを支える人々の願いを、調べたことを話し合ったり関連づけて考えたりすることを通して、税とのつながりから理解することができる。

(3) 展開

過程	学習活動	時間	教師の指導・支援	評価等
つかむ	1. 前時までの振り返りを行い、本時の課題をつかむ。	3分	○前時までの学習でわかったこと ・ 宇佐市予算で市の収入の66%が市税であった。 ・ 市税の他にも○税や△税が関わっている。 ・ 私たちの暮らしを～税が支えている。 ○税金について調べたことを整理し本時の課題を伝える。	前時までの掲示 学習の流れの掲示
			めあて 税と平和学習で訪れた場所や物とのつながりについて考えよう。	① めあて・課題 ② 考える ③ 交流 ④ 発表 ⑤ まとめ・ふりかえり
			課題 税と平和に関する場所や物には、関わりがあるのだろうか。	
もとめる	2. 宇佐市の税金と平和学習で学んだものや場所とのかわりについて、自分の考えをもつ。	10分	○税金と宇佐市にある平和資料館や掩体壕、爆弾池など、関わりがあるか問いかける。 ・ グループで交流させる。 ・ 自分の考えと友だちの考えを比較して、似ている言葉があることに気付かせる。 子どもの考え (予想) 「残しておきたい」「平和のため」「未来のため」 「宇佐市のため」「公共」	[知識・技能] (見取る方法) 話し合いの内容から必要な情報を整理しまとめ、税との関わりを探ろうとしている。 (記録メモ・ワークシート)
ふかめる	3. 全体で交流する。	27分	○税金の役割を確認させる。 ・ 私たちの願いが税の役割につながっていることに気付かせる。 ・ 暮らしの中の税と豊かさについて問いかける。 ・ もしも税金がなかったら、公共サービスが有料になることを伝える。 「救急車が有料に」 「医療費がすべて自己負担」	

ま と め る	4. まとめをする。	5 分 ○宇佐市の税金についても様々な話し合いにより 使い方が決められていることを知らせる。 ・平和学習でガイドしてくれた弘中さんからのメッ セージを伝える。	
------------------	------------	--	--

まとめ 掩体壕や平和資料館などは税金（国からの交付金）が使われている。そのお金によって、今も現存している場所や物がある。

ふりかえり
 ○税のおかげで私たちは生活できている。
 ○えんたいごうや平和資料館、桜花などいろんな人が残したいという思いがわかってよかったです。
 ○社会で習った義務の一つだから、税はやっぱり大事なんだと思った。



1 2月15日互見授業 総合的な学習の時間

単元名「自分たちの暮らしについて知ろう」

1 課題（見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか）

- ・引き受けていた。「関わりはある」その根拠まで書けていた。→交流が日常的に行われていて、考えを伝えることが根底にあるので、根拠まで書くことができたのではないか。前時が学習できていれば、関わりがないと書く子はいないので、どんな関わりがあるかと問うてもよかった。
- ・前時までの税の学習、背面黒板の税学習が押さえられているので課題は引き受けられていた。
→子どもは「社会見学で訪れた場所＝公共サービス」の認識があれば、本時の課題を受けた6年生は全員関わりがあると答えたと思う。（関わりがなかったと答えないのでは）ならば課題が「どんな関わりがあるか」という課題もよかったかもしれない。
- ・多くの子は、自分の考えをワークシートに書いていた。→税について思い出すことにより、税との関連で考えをもって記述できていた。
O.R…平和についての記述がなく、公共サービスがなくなると困るということのみ記述。
- ・平和学習や税の役割など調べたことを関連付けて考えることができていた。公共サービスや願いなど税との関わりを考えをもつことができた。
- ・全員が「関わりがある」と記入していた。
課題を読み、「関わりがあるのかな」と投げかけると、E.Mは首を傾げ、M.Rはうなずく。
- ・平和学習で訪れた場所を税は関わりがあるのか考える課題は、子どもにとって身近な内容で考えやすかったように見えた。→「戦跡は残して欲しいから」「維持費にお金が必要だから」税金が使われるべきと違う考えが出ていた。
- ・児童が最初に書いた考えの理由の中に「宇佐市のため」「公共」といったフレーズはなかった。
- ・公共の道路等の整備について考えているが平和とあまり関係ない児童が大半だった（H.Sほか）
→平和学習の延長的な学習、または社会的な税金の学習という捉えをしており、そこから「暮らしを支える人々の願い」には思いがいてなかった。
「平和」と「人々の願い」をつなぐのであれば、課題は「〇〇は税金に関わりがあるか」より「なぜ〇〇は税金が使われているか」としたほうがよかったと思う。
- ・授業の流れの提示があるので分かりやすい。

子どもたちが課題を引き受けていた。ただ、子どもの実態からすると課題を変えてもよかった。

2 交流活動

(1) 立ち位置をはっきりさせ、考えをもつことができたか

- ・考えを全員持っていた。
- ・全員が自分の考えと根拠をもって書けていた。
- ・EM…首をかしげていたが、ワークシートには「関わりがある」と自分の意見を書いていた。
→「関わりがあるかないか」について皆立場をもっていた。また、友だちの意見をよく聞いていた。
- ・維持費や管理、周辺整備など税金が使われている。→しっかり考えをもつことができていた。
- ・課題に対する自分の考えはどの児童も書けていた。

- ・友だちとの話し合いでもしっかり意見を表明していた。

(2) 考えを広げた (3) 考えを深めた (4) 考えを高めた

- ・交流の「今ココ」の印も効果的である。考えをもつことができている子が多かった。→ホワイトボードの活用が「課題→考える→交流→発表→まとめ」良いなと思います。
 - ・課題に向かっていた。
 - ・グループ交流で OR と HS が HH の意見を聞いて「ほう」と声をあげてほめていた。「友だちの考え」として書き込んでいた。→考えを広げたもしくは高めたと言える。
 - ・「みんなで大切にしていきたい」「多くの人に知ってもらえる」「戦争を教えるため（後世に伝えるため）」等の考えが出ていたので、考えを書いた子や周りの子との交流や教師が問い返したりすることで、子どもたちの中でより深まったり、自分たちの言葉でまとめたりできたのではないかと思います。
 - ・交流活動の中で見るができなかったが、まとめの段階で「考えが変わった」「共感した」と挙手した子どもがいたので、話を聞きながら変容があったことが分かる。
 - ・HH…ワークシートの振り返りで、「維持費（自分の考え）以外にも使われていることが分かった」と記入
 - ・友だちの考えを聞き、自分にはない考えに納得している人がいた。
 - ・何をどうしたら深める内容になっていたのか。まとめで「国からの交付金」が使われていることをまとめていたので、それが出る手立ても必要だったのかな。
 - ・自分のワークシートに友だちの意見をどんどん書き込んでいた。→友だちと考えを交流し、考えを広げることはできていた。
 - ・途中で教師が出してきた「暮らしの中の税金の役割」という話題に関して児童からあまり積極的な発言がなかった。
- 平和関連施設と税金について話し合った後に「暮らしの中の税」の話になったが、つながっておらず、児童が対応できていないように感じた。
- 「あえて宇佐市が税金で平和関連施設を整備するのはなぜか」について掘り下げていけば「人々の願いや思い」「公共」といった視点にシフトできたのではないかと思います。

(2) SS は自分で、考えが変わったと捉えていた。

自分の考えが変わったもしくは共感できたと自分から言える子どもたちに育っていた。

→日常的に班での交流などができていることが伺えた。また自分の考えを言えることや聞き入れてくれる学級づくりができていた。

(3) 共感した子が多かった。

友だちや班の交流を通して考えをはっきりとさせることができていた。→社会科の公民・税の学習があり総合的な学習で教科を横断的に進めていた。

(4) 建設費が税金で賄われていると考えていた子が多かったが、HH の維持費 RM の運営費などの考えが、多くの子に広がっていった。2 班の思いや願いに対しても、受け入れがあり、高まった子がたくさんいた。

1, 4 班は建設費

2 班は思いや願い

3 班は維持費や運営費

にまとまっていたように思われる。→それぞれの班の考えが、全体のものになったことがよかった。

子どもたち全員が考えをもち、交流することができていた。交流する中で、意見と理由をしっかりと述べることができ、考えながら自分の意見を聞く姿も多くみられ、日常的に交流活動をしていくことが大切であることが分かる。考えの深まりや高まりの姿は、授業中に姿として見られなくても振り返りの記述の中で見られることがあり、授業全体を見ていくことも大切であると思う。

※挙手させることにより、考えが変わったり、深まったりしたという、子ども自身が感じている変容が見て取れた。(授業の中では表出しないもの) →変容を見取るための手立て(挙手、振り返りシートなど)があるとよいのではないか。

3 振り返り(次の課題につながったか 分かったことなどをまとめているか)

- ・THの「税金を払ってみたい」やROの「維持費等以外にもどんなことに税金が使われているか知りたい」など、次につながっていた。→人件費や宣伝費などに見の気付かせたい、特に「弘中さんの思い」やホームページに6年生の感想が掲載されたことから、広告して広く知らせているのは何のためか等を扱うとよいと思う。
- ・自分なりに振り返りが書けていた。特に維持費や整備費などの言葉が出てきて使われ方への関心のある発言が聞こえた。→研究会の2本の授業そして互見授業を通して学んだ授業展開が見られた。まとめは、子どもの声を活かしてどうまとめるとよいか聞きながらよかった。
- ・D.K…税金が大切なことが分かった。→自分の考えで詳しく理由は書けていなかったが交流で出た意見を聞いて、大切なことを改めて感じ取ったのではないかと思う。
- ・全員が振り返りを書いていた。まとめは、子どもの意見のキーワードを聞いて子どもたちにまとめさせてもよかったと思う。
- ・O.Kが「いろいろな人がつながっていることが分かった。」と書けていた。→学習を通して、人々の関わりまで理解して感心した。
- ・まとめの中での「税金(国からの交付金)」「人々の思いや願い」という表記。→児童が「国からの交付金」という言葉をわざわざ使ったということは「税金=私たち自身が払ったお金」という認識が薄くなっているように思う。少なくとも、まとめでわざわざ「国からの交付金」と書く必要はなかったと思う。
- ・振り返りの際、児童から「平和に関することは国からの交付金と分かった」「人々の思いに使われていることが分かった」と発言。→「人々」という児童の表現からは、児童の中で、税金の話が自分事でなく他人事になっているように感じた。「人々」ではなく「私たち」で一貫させるべきだと思う。

学習を通して、全員が振り返りを書くことができていた。ただ、まとめに使う言葉や振り返りの視点などは、もう一歩踏み込んでもよかった。

租税教育で学びます



いろいろな人が安心して生活するために税金が使われています



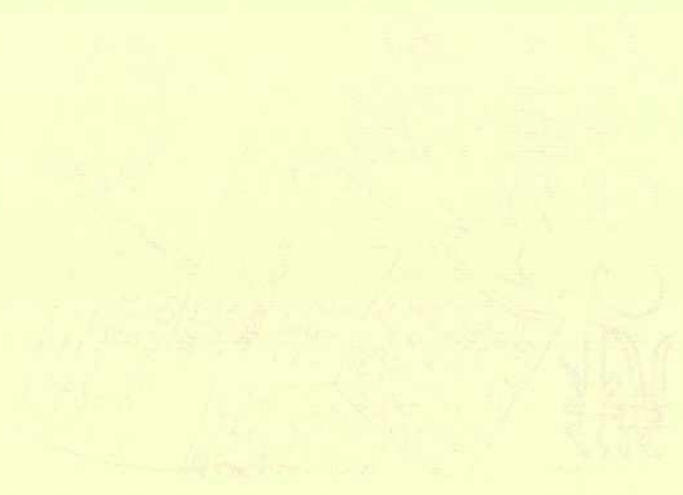
私たち子どもが安心して勉強するためにも税金が使われています

III 研究経過

2. 検証授業

(提案授業研)





(册業對案註)

業對玉指錄 . 2

III 册業對案註

第1学年 生活科学習指導案

令和2年1月16日5校時

指導者 衛藤 紀子

1 単元名

「こうえんで あきを さがそう」

(5) 季節の変化と生活 (6) 自然やものを使った遊び

2 租税教育とのかかわり

- ・郷土愛…地域の自然や行事を知り、楽しむことができる。
- ・集団の一員…友だちと助け合い、一緒に行動することができる。

活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

- ・人間尊重の精神…自分の特徴に気づき、身近にいる人に親切にすることができる。
- ・税の学習…みんなで使うものを大切にし、約束やきまりを守ることができる。

3 単元設定の理由

(1) 児童について

本学級の子どもたちは、様々なことに興味を持ち、意欲的に活動に取り組んでいる。学校生活に慣れ元気に行動し、活動範囲が広がってきた。いろいろな活動のできる生活科の学習も大好きである。1学期に取り組んだ内容(1)学校と生活「がっこうだいすき」では、校舎内を探検して学校の施設の特徴に気づいたり、先生にインタビューをして学校にいる人の働きや役割に気づいたりすることができた。このような学校探検を通して、学校には多くの人と一緒に生活していることやみんなで使う場所や物がたくさんあることに気付いていった。学校生活も約7か月が過ぎ、担任や学級の友だちだけでなく、他の職員や上級生との関わりも増えてきた。また、休み時間には上級生や友だちとともに教室外で遊ぶなど、行動範囲も広がっている。その中で、校内で出会う人たちに挨拶をしたり、遊具やトイレなどの施設をルールやマナーを守って使ったりすることが身に付いてきている。

(4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び「なつがやってきた」の小単元「みんなの こうえんで あそぼう」では、校区内にある「松崎公園」に出かけた。「がっこうだいすき」の小単元「つうがくろを あるこう」を兼ねて、実際に松崎公園までの通学路を歩いたことで、地域の方や保育園の先生に出会い、挨拶を交わすことができた。松崎公園では、ブランコや鉄棒などの遊具で遊んだり、昆虫を見つけたり、草花で遊んだりした。公園でグランドゴルフをしていた地域の方たちと話したり、グランドゴルフを一緒にしたりした。

交流活動については、子どもたちは自分の考えをもち、クラス全体の場での意見を発表することができるようになってきた。初めは、自分の意見を言うだけにとどまっていたが、少しずつ、訳を言ったり、友だちの意見に対して、「同じです。」と、自分の考えと友だちの考えを関連付けたりすることができるようになってきている。松崎公園に行った後も、楽しかったことや見つけたことなどを発表し合い、公園はいろいろな人が使う場所であることや、公民館や掃除道具入れ、トイレなどを見て、公園には遊具以外にも施設や設備があることに気づくことができた。これらの学習で友だちと学校や地域にある施設で仲良く遊んだり、校庭や近くの公園で虫を探したり草や木の葉で遊

んだりする活動を通して、身近な人・社会・自然と関わってきた。

校区内には、松崎公園と和間海浜公園という2つの公園があるが、公園があることを知っているのは、数人しかいなかった。松崎公園は、保育園や地区の行事で利用したことがあるという子どもが4～5人いたが、ほとんどの子どもたちは、公園に行ったことがないと答えていた。とくに、和間海浜公園については、全員が行ったことがないと答えていた。このように、どちらの公園も子どもたちにとって身近な施設ではないことが分かる。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることや、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」と内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を主な内容として単元を構成する。本単元で、子どもたちは、「夏の公園探検」と「秋の公園探検」の時の様子を比較することで、自然の様子が変わったり、季節によって生活の様子が変わったりしていることに興味関心を深めていく。また、体験で得た気付きや発見を他者と紹介し合う活動を通して、気付きの質を高め、自分たちがその中で生活していることや、自分たちの生活そのものを楽しめることができるということを感じていく。この単元での学習は、後の「はっばや みで あそぼう」の単元へとつながる。児童が好む遊びの中に、主として自然の事物を使ったり自然の現象を利用したりする遊びや、不要になった物などを使った遊びなど様々な遊びが考えられる。自ら自然に関わり、「みんなで遊ぶと楽しいね。」「こんなのがあったよ。」「次はこんなことしたいな。」など他者とのかかわりを大切にしながら、「教えない」「伝えたい」という意欲を高め、主体的に学習を進めていけるよう単元のつながりをも大切にしていきたい。

さらには、「公園探検」という体験活動を通して、自分たちの身の周りにある施設設備に目を向けながら自然と親しみ、地域を大切にしようと思う心情を育むことに適した教材である。

(3) 指導について

本単元の指導に当たっては、まず、校庭で身近な秋を見つける活動を通して季節の変化や秋に関心をもたせたい。次に、公園へ秋を探しに行き、落ち葉や木の実などを拾い、夏のころと比べながら諸感覚を働かせて季節の変化を十分に体感できるようにしたい。子どもたちの中から生まれてきた落ち葉や木の実を使って楽しみたいという思いを高めるため、拾ってきた落ち葉や木の実を教室に陳列する。そして、自ら集めてきた素材をもとに、遊ぶものや飾る物等を作る。秋探しで見つけた季節の変化や自然物で遊ぶ楽しさを「秋のおすすめ」として友だちに紹介する。その後、「あきのおもちゃをつくろう」では、集めた秋の物でおもちゃを作り、2年生を招待して一緒に遊ぶことを想定している。

本時の指導に当たっては、まず、秋の公園に探検に行ったことを確認し、遊んだことや見つけたことを発表させる。そこから、「公園の秘密を見つけよう」とめあてを提示し、夏と秋で公園の様子を比べさせる。「夏と秋で公園の様子はどう変わったか。」を本時の課題として、公園の様子が変わったことと変わらなかったことについて見つけさせていく。夏の公園の写真と秋の公園の写真を並べて提示することで、子どもたちがさまざまなことを気付きやすくする。このとき、違いを見つけ

にくい子どももいると想定されるので、小さく縮小した写真を入れたワークシートを用意し、手元で見比べ、見つけたことに印を入れられるようにする。違いの方に多く目が行くと思われるので、倉庫や公園の草など、公園の整備や利用者などにも目が行くように投げかける。子どもたちが、公園の施設や設備に気付いたところで、「なぜ、倉庫があるのか。」「誰が使っているのか。」と問いかけ、みんなで使う公園をきれいにしている人たちがいることに気付かせる。そして、公園を管理している区長さんのビデオメッセージを視聴し、公園に対する地域の人々の思いに気付かせる。最後に、公園の秘密として「自然や人の様子は変わるが、いつでも公園が使いやすいように掃除をしてくれる人がいる。」という内容でまとめた後、本時の学習で分かったことを振り返る。

4 単元の見直し

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするようにすることができるようにする。



5 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。
小単元の評価規準	1	①色や形、においなど、秋の校庭の自然の様子と、夏の校庭の自然の様子との違いに気付いている。	①幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。	
	2	②身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。 ③公園には、自分たちが気持ちよく使えるように、支えている人々がいることに気付いている。	②秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探している。	
	3		③秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいる。	①秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。
	4	④季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わること気付いている。		②季節を生かして遊ぶことに楽しさと手応えを感じ、これからは季節の遊びを楽しもうとしている。
	5	⑤いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定のきまりがあることに気付いている。	④さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃをつくっている。	
	6	⑥自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 ⑦みんなで創った遊びをする際に、遊びのルールを守っている。		③自分で遊びを創り出す面白さを実感し、これからは遊びを創り出そうとしている。

6. 指導と評価の計画（全21時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	評価規準と評価方法
<p>1 こうていで あきを さがそう (3)</p>	<p>〔小単元1の目標〕校庭に出かけ、幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探し、色や形、においなど、秋の校庭の自然の様子と、夏の校庭の自然の様子との違いに気付くことができるようにする。</p> <p>○校庭で、初秋の草花や樹木、虫などの動植物を観察したり、木の実などを使ってその場で友だちと簡単な遊びをしたりする。(2時間)</p> <p>○夏の頃の様子と比べて、変わっているところを話し合い、記録カードに書く。(1時間)</p>	<p>[知] ① [思] ① ・発言分析 ・行動観察 ・記録カード</p>
<p>2 こうえんで あきを さがそう (3)</p>	<p>〔小単元2の目標〕身近な自然の様子を観察したり、自然物を利用して遊んだりしながら、秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探し、身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付くことができるようにする。</p> <p>○これまでの活動を振り返り、公園で秋を探すことについて話し合う。</p> <p>○ルールやマナーを守りながら学校と公園を往復したり、公園で遊んだり観察したりする。(2時間)</p> <p>○教室に戻ってきて、公園での活動で楽しかったことや気付いたことについて話し合う。(1時間) … 本時</p>	<p>[知] ②、③ [思] ② ・発言分析 ・行動観察 ・ワークシート</p>
<p>3 はっぱや みで あそぼう (3)</p>	<p>〔小単元3の目標〕秋の自然と関わりたいという思いをもち、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選び出し、試行錯誤しながら秋の自然を生かした遊びを楽しむことができるようにする。</p> <p>○秋の自然の中で遊ぶ活動について話し合う。</p> <p>○秋の自然の中で遊んだり、葉や木の実などの自然物を使った遊びを工夫したり、簡単なおもちゃを作ったりする。(2時間)</p> <p>○秋の自然の中での遊びを振り返り、気付いたことを話し合う。</p>	<p>[思] ④ [態] ① ・発言分析 ・行動観察 ・記録カード</p>

	○話し合ったことを基に記録カードを書く。(1時間)	
4 あきのことを つたえよう(1)	<p>〔小単元4の目標〕秋の自然と関わったことを振り返り、夏の遊びと秋の遊びを比べ、季節によって生活の様子が変わることに関付き、季節を生かして遊ぶことに楽しさを感じて、これからも季節の遊びを楽しもうとすることができるようにする。</p> <p>○秋の自然の中で活動したことを振り返り、友だちと紹介し合う。(1時間)</p>	<p>[知] ④ [態] ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析 ・行動観察 ・記録カード
5 あきのおもちゃを つくろう(7)	<p>〔小単元5の目標〕集めたさまざまな自然物を試しながら比べて材料を選び、自分のおもちゃをつくる中で、いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定の決まりがあることに気付き、試行錯誤して楽しいおもちゃを創り出そうとすることができるようにする。</p> <p>○あきのおもちゃをつくる活動について話し合う。 ○校庭や公園などで集めた葉や木の実、身の回りから集めた材料を使って遊ぶ。(1時間) ○おもちゃや楽器を工夫してつくりながら遊ぶ。 ○自分がつくったおもちゃや楽器を改良したり、つくるおもちゃを変えたりしながら遊ぶ。(4時間) ○つくったおもちゃで友だちと一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるようにつくり方や遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむ。(2時間)</p>	<p>[知] ⑤ [思] ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析 ・行動観察
6 いっしょにあそぼう(4)	<p>〔小単元6の目標〕園児の気持ちを想像しながら、一緒に楽しめる遊びやおもちゃを工夫してつくり、自分が遊びを創り出したことでみんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付き、これからも遊びを創り出そうとすることができるようにする。</p> <p>○自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊ぶ計画を話し合い、準備をする(当日の進め方、おもちゃや遊びの工夫)。(2時間) ○自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊びを楽しむ。(3時間) ○おもちゃをつくったことや遊んだことを振り返り、記録カードに書く。(1時間)</p>	<p>[知] ⑥、⑦ [態] ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析 ・行動観察 ・記録カード

7. 本時案 (6/21)

《租税教育とのかかわり》

- ・郷土愛……地域の自然や行事を知り、楽しむことができる。
- ・税の学習……みんなで使うものを大切にし、約束やきまりを守ることができる。

(1) 題目 なつと あきの こうえんのようにすを くらべよう

(2) 主眼 秋になって身近な自然の様子が変化していることや公園の環境を整備している人がいることを、遊んだことを発表し合ったり、夏と秋の様子を比べたりする活動を通して気付くことができる。

(3) 展開

過程	学習活動	時間	教師の指導・支援	評価等
つ か む	1. 探検を振り返り、本時のめあてを確認する。	5	○公園で遊んだことや見つけたことを発表させる。	
			なつと あきの こうえんのようにすを くらべよう	
も と め る	2. 夏と秋の公園の様子を比べ、変わったこと・変わらなかったことを発表する。	15	○夏と秋で公園の様子がどのように変わったのか問い、本時の課題を提示する。	
			こうえんには どんなひみつがあるかな。	
			○写真を見比べさせ、公園の様子について考えさせる。 ※手元でも見比べ違いを見つけられるように、縮小した写真を載せたワークシートを用意しておく。	[知] 夏から秋になって、身近な自然の様子が変化していることに気付いている。
			○見つけたことを発表させる。 ・季節の変化、利用している人々、施設・設備などの項目ごとに分けて板書する。 ・違いだけに発表が集中したときは、変わらないところはなかったか問い、草が伸びていない、広場がきれいなど、季節が変わっても変化が見られなかったところにも目を向けさせる。	(発言、ワークシート)
ふ か め る	3. 倉庫の存在を思い出し、なぜ倉庫があるのかを考える。	17	○倉庫の中に、何が入っていたかを思い出させ、なぜ倉庫があるのかを考えさせる。 ・倉庫の中には、掃除道具が入っていたことを思い出させる。	
			《予想される子どもの意見》 ・公園をきれいにするため。 ・いっぱい人が来て欲しいから。 ・公園に来た人が気持ちよく使えるように。	
			○だれが掃除道具を使っているのかと問い、みんな	[知] 公園には、自分たちが気持ちよく使えるように、支えて

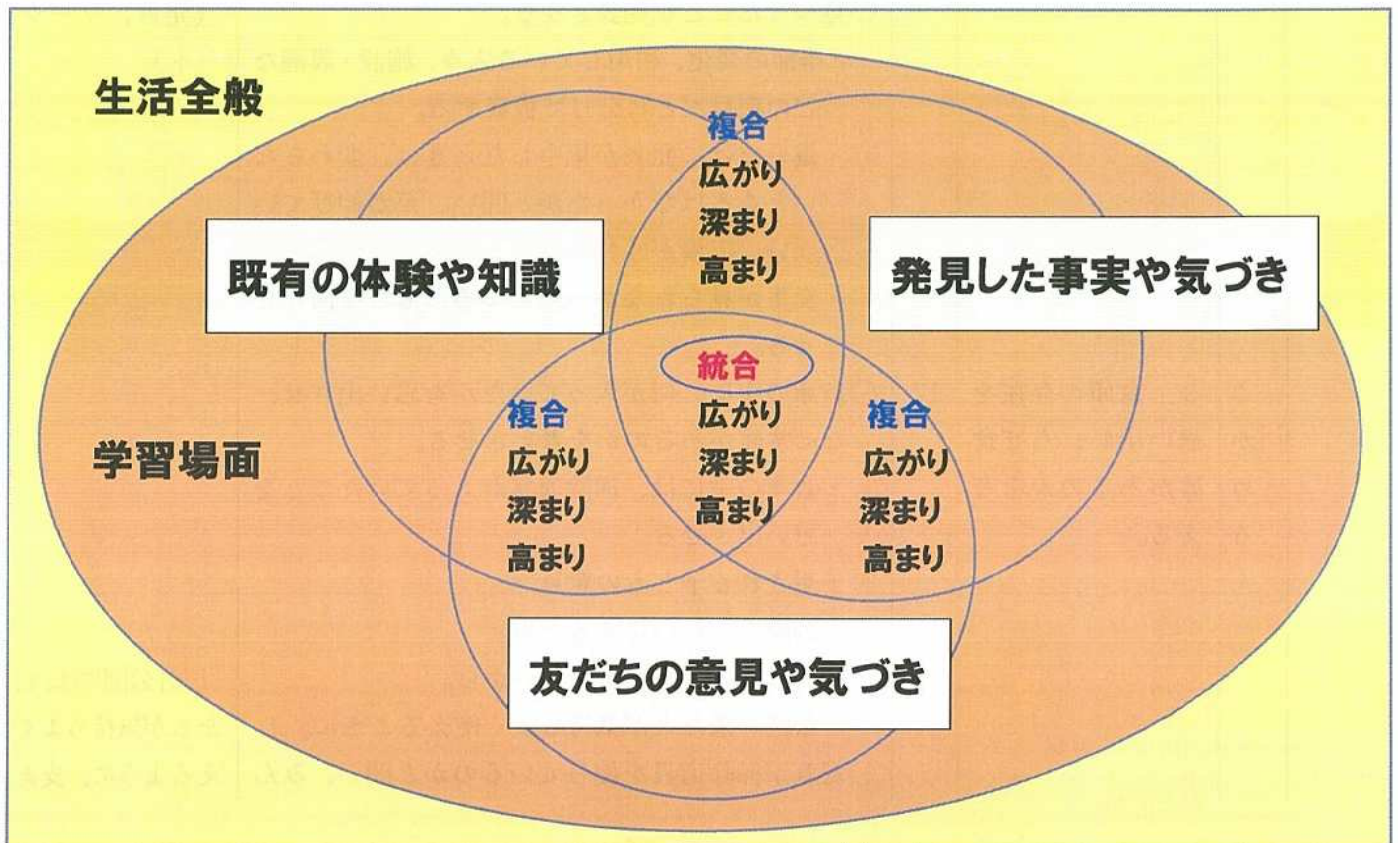
まとめる	4. 公園のひみつをまとめる。	8	<p>なで使う公園をきれいにしている人たちがいることに気付かせる。</p> <p>○区長さんのビデオメッセージを視聴させる。</p> <p>○本時の学習をまとめさせる。</p>	いる人々がいることに気付いている。(発言)
		<p>しぜんや ひとの ようすが かわる。でも、いつでも こうえんが つかいやすいように そうじを してくれている。</p>		
			<p>○本時の学習で分かったことや気付いたこと、公園の掃除をしてくれる人たちがいることを知ってどう思ったか、などを観点に本時を振り返り、発表させる。</p>	
<p>・なつとあきでは、木のようすがちがった。</p> <p>・こうえんを そうじしてくれる ひとが いることをして、これから こうえんを たいせつにつかおうと おもった。</p>				

1年生の学習の中で、広がり・深まり・高まりの捉え方についての確認が必要となった

広がり・深まり・高まりの【 捉え方 】

- 1 狭義に 交流活動の中で獲得した考え（附加された考えや新しい考え）
→本時の子どもの変容
- 2 広義に 本時や他の学習をきっかけに考えが広がったり深まったり高まったりした考え →教科横断的に・生活のあらゆる場面で

広がり・深まり・高まりの【 獲得の仕方 】



1 年生活科研究授業について (分析)

1 課題：見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか

ほとんどの子が引き受けられた有効な課題であった

根拠 比べることの意味付けがはっきりなされていた 《同じ・違う》

公園体験の想起 (見た、楽しかったという発言)

「ひみつ」という言葉 (言葉に子どもが反応)

「ぜんぜん違うなあ」などのつぶやきがあった

「わからない」と発言→○の付け方が分からなかった

写真全体に○をつけていた子にこの中のどこか聞くことでポイントに○することができた

2 交流活動

立ち位置をはっきりさせ考えを持つことができたか

ほとんどの子が考えを持っていた

根拠 すぐに○印をつけ始めた

どの子も○印を複数つけることができた (1枚の写真に2か所3か所とつける子も)

違うところを発表したい子がたくさんいた

ワークシートの写真の4枚という枚数は本学級の児童には適切であった

体験していたことが意欲になり、考えをもたせた

考えを広げた (友だちの意見を聞いて考えが変わった・気づきになった)

発表を聞くたびに、挙手が増えた

根拠 「ああそうだった!」のような「うなずき」や「つぶやき」がたくさん聞かれた

「まだあります」と言いたがりの様子が見えた

考えを深めた (自分の考えの根拠をはっきりさせることができた)

自分と同じ意見の子の発言を認められた

ビデオを見ることで確認できた

根拠 「同じです」の発言

ビデオを集中して見ていた 知っている人のビデオで身近さを感じていた

考えを高めた (他の人の意見を聞いて自分の考えを膨らませた人、取り入れた人)

高めるところまではいけなかった

《 1年生をどのように高めていくかは課題 》

1案：活動を少し変えてみる

課題「夏と秋の写真に分けよう」

ランダムに夏と秋の写真を複数枚提示し、それぞれ夏と秋に写真を分類させる

その際、夏と秋の写真が必ずペアになっていなくてよい 倉庫や砂場なども混ぜておく

夏の写真・秋の写真だと他の人を納得させる理由が必要になることから「だってな」「それは」「○○が他のところでもあった」「この前、○○を見た」「お母さんが○○と教えてくれた」「図鑑に載っているのをみた」「地域の○○さんが教えてくれた」等の発言が必要になってくる。子どもは自分の生活や体験を根拠に話す必要が出てくる。ここでたくさん交流させたい

変わらないものは夏にも秋にも入らないことから、「倉庫が何のためにあるのか」「砂場の色が半分違っていたのは秋になったせいかな？」等の疑問に進むことができる 自分の体験や生活に根差して、発言できそうな場面設定を今後増やしていくことで高まりを追求したい

理解の遅い子には、同じ場所の夏と秋の写真を2枚見せ、「どちらが秋と思うか」などの支援をする

本研究では「高まり」まで追求したい。対立する（意見を交わす）交流活動、生活や体験に根差した発言が必要になる交流活動を意図的に仕組んでいくようにすることが必要ではないか。そのような交流活動が日常的に行われることを目指したい。

小学校学習指導要領解説から

生活科の目標の趣旨

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す

資質・能力の育成のために

生活科における見方・考え方は、身近な生活に関わる見方・考え方であり、それは身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとするものである。見方・考え方を生かすとは、生活科の学習過程において、自分自身がすでに有している見方・考え方を発揮することであり、その学習過程において、見方・考え方が確かになり、一層活用されることである。

3振り返り

次の課題につながったか、分かったことなどをまとめているか

自然の変化だけでなく、公園は公共の場所という意識が芽生えた

根拠 「掃除してくれてるからすごい」

「きれいになったからうれしい」

【 後日談（翌朝、一人の児童との会話） 】

校門に着いた一人の1年生が、学校近くの鳥居を見上げ、「あの鳥居の上には何があるのかな」と話しかけてくる。昨日勉強した公園みたいな場所があるのでは思っている様子。背の高い木もあり、葉っぱの落ちた木と落ちていない木があると言う。他の公園も昨日の勉強と同じだろうか、秋らしいものを見つけてみたいなどという気持ちが伺えた。さらに校庭の木にも葉っぱの落ちた木と落ちていない木があると言う。道に落ちている葉っぱは、全部茶色で、虫喰いのある葉っぱもあると教えてくれる。まだ葉っぱを残している木も緑の葉っぱと赤の葉っぱがあり、赤の葉っぱから先に落ちるんだねと話した。「ここも掃除の方がいいよ」と言いながら、校舎に向かった。

子どもの学習の広がりを感じられた1幕でした。次に広がる学習となっていると捉える。

【 指導・講評 】

- 租税教育のねらいをしっかりと捉えて4つの視点にそって研究が進められている。
- どの教科のどこで、租税教育を進めるのか、各学年の年間計画ができていますので、年度末には、来年に向けて、練り直すとよい。教科横断的に扱う。
- 今回の授業では、生活科の目標に租税の視点が盛り込まれた授業になっていた。租税の部分だけを1時間使って行うのではなく、今回のように生活科において「生活上に必要な習慣には、みんなでせいこつするためのきまりに関わること」があり、この視点に立ち、学習過程を構成していることはよい。
- めあてと課題が近づきすぎたのではないか。倉庫のような無機質なものに焦点を当てるより「葉っぱ」に目を向けさせて、「葉っぱがなくなったけど、どうしたのかな」「その葉っぱはどこに行ったのかな」とする課題でもよかったのではないか。「風で飛ばされた」「土になった」「虫が食べた」等のそれぞれの立場を持てる。
- 写真を活用したことは有効であった。区長さんのメッセージが公共の意識とマナーを伝えていた。
- 今回の授業で、大切なことは、教科の目標を達成させながら、租税教育の部分を入れるのが、一番重要である。

【 次の授業に向けて（検証すること） 】

交流において「高める＝他の人の意見を聞いて自分の考えを膨らませたり、取り入れたりする」ための

- ①めあて・課題の設定
- ②授業構成
- ③交流のさせ方
- ④総合の目標と租税の関わり

以上4点を中心に話し合う。

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和2年11月26日5校時

指導者 須藤 優子

1 題材名 和間を支える人々

2 租税教育との関わり

- ・郷土愛・・・地域を支える組織を知り、関わる人々の思いに迫ることができる。
- ・税の学習・・・まちをよりよくしていくための自分の考えを持ち、地域に発信できる。

3 題材設定の理由

(1) 児童生徒について

本学級の児童13名は、明るく、課題に対して前向きに取り組もうとする児童が多い。3年生から地域の伝統行事「放生会」のお囃子に参加をはじめ、今もその練習に励んでいる。しかし、その意義や周りの環境については、あまり深く考えずに生活をしている。

総合的な学習として、去年はゴミや空き缶・ペットボトルの行方を調べ、各々の処理の仕方を発表し、自分たちにできるリサイクルの方法を全校によびかけた。平和学習では、効果音を入れたり、読みに強弱をつけたり、発表の表現方法を班で工夫し、聞きあう姿も見られた。また、秋には枝豆収穫、冬は麦撒きと地域の中での農業体験に意欲的に参加した。どちらにも農事組合の方々のお世話があったが、児童の意識の中にその存在や役割への気づきは薄いと思われる。

税についての学習では、講師の方の話やDVDから、「税金が道路や橋など身近な所でみんなのために使われていることを初めて知った。」と感想を書いた児童がほとんどだったが、中には「税がなければ、災害時などに困る。」「みんなが知恵を出し合って暮らしている。」「市役所に税金が使われているのが、意外だった。」などの感想も見られた。

5年生になってからの農業体験学習では、作業の大変さを感じながらも、横一列に並んでする田植えは、みんなのタイミングが合わないと次の苗を植えられないことから、協力する大切さが身をもって学習できた。また、等間隔で曲がらないように植えることができる「田植え綱」に農家の方の工夫や知恵を見つけることもできた。稲刈り体験では、自分たちが鎌を使って刈り取った面積をあっという間にコンバインがしてしまったことに機械の便利さに感心するとともにその価格の高さに驚き、昔の農家の苦勞に思いをはせていた。

(2) 教材(題材)について

地域の「人」と「組織」を取り上げ、地域の人々の「和間地区にかける思い」を総合的な学習の時間として扱っていく。

和間地区は、宇佐平野の東端にあたり、川を隔てて豊後高田市と接している。その川では宇佐神宮の祭事の一つ「放生会」が行われ、文化豊かな土地柄である。本校にも文化財愛護少年団が結成され、放生会は地域の人々全員で継承されている。

また、登校時には、地域の人々がボランティアとして児童を見守り、交通安全を呼び掛けるポスターを目にする。児童にとっては、緑豊かな環境も、放生会のお囃子も、朝の登校風景も実に身近なものであり、体験的・実践的な学習が組みやすい題材である。田植えや稲刈りの体験学習は、児童に興味関心を持たせることはもちろん、農家が抱える悩みに直面させる機会でもある。

身近であればこそ、地域の団体を調べたり、地域の方にゲストティーチャーになってもらって話を聞いたりすることは、今まで当たり前だと思っていた事柄の再発見につながり、和間の良さが児童にダイレクトに伝わる教材だととらえている。

「みんなの生活をみんなでよくしていく」仕組みは、税の使い方と共通する考え方であり、各団体の悩みを解決しようと考え、公民的資質も養えると期待する。今回の学習が、次年度「政治の仕組み」を学ぶ基礎になるであろう。

また、調べたことをもとにその中から自分なりの考えを地域に向けて発信することを通して、まちづくりへの主体性もねらえる教材である。

(3) 指導について

小単元1は、社会科でわが町和間地区を航空写真で見たとところから始まる。周防灘に面した校区には新田が広がり、そのほとんどは、農地である。基幹産業である米作りを学びながら、米作りの仕事には多くの人々が関わっていることに気づくであろう。その一つJAを教科書で学習したのち、地域にはもっと他の「多くの人々が関わっている団体」があることにつなげ、広く地域に目を向けさせていく。身近にある、自分たちに関わっている団体組織を調べることは、児童の意欲になるであろう。

小単元2では、探求課題を「和間地区には、どんな団体があるのかな」とし、学級を3つの「調べ隊」に分け、「農事組合」「町づくり協議会」「放生会委員会」を調べていく。調べ学習にあたっては、児童の主体的な学びになるように事前学習に力を入れるとともに、協力して学習する姿を求めたい。地域の方の話を聞いたり、団体の仕組みを調べたりしながら、「調べ隊」ごとに調べた内容を整理させる。この時、まとめ方を「団体への勧誘」とし、「活動の内容」「やりがい」「地域への思い」等の視点で整理させる。調べた児童が、その団体職員になったつもりでやる気を奮起し、団体の良さを見つけてアピールしていく姿を期待したい。3つの団体とも活動内容は違えども、「ふるさと和間をよりよくしたい」思いを持っていることに気づかせたい。

続く小単元3では、各「調べ隊」が調べたことを発表し、それらを比較することを通して、地域の人々の「和間のためにみんなで力を合わせる」姿を浮かび上がらせる。ここでは児童に、小単元2で自らが調べたことをふまえ、他グループの発表を聞いてもう一度考えを深めていかせたい。「もし、所属できるのなら、3つの団体のうちどれを選ぶか」となげかけ、未来の担い手として話合わせていく。今まで何気なく生活してきたくらしは、たくさんの人々に支えられていて、地域の方が「もっと住みやすい和間地区に」と願っていることを再確認させたい。単元の終わりでは、「みんなの生活をみんなでよくしていく」税の考え方とつなげ、将来和間地区に住んでいてもいなくても、お互いを助け合う気持ちを持つことの大切さに触れ、視野を広げさせる。

まとめの小単元4では、児童が考えた地域を盛り上げるための方法を、国語科「みんなが過ごしやすい町へ」と連携させ提言文としてまとめ、地域の方々へのお礼としていく。ここでの学習は、国語科での手法を取り入れつつ、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく」という総合的な学習の目標を意識して行い、教科を横断的に見て進めていく。そしてこれら一連の活動を通して、本校の研究主題「地域についての理解を深め、自他の良さを認めながら、共に伸びようとする児童の育成」に迫っていきたい。

4 単元の目標

地域の団体組織を調べることを通して、「ふるさと和間のために」力を尽くす人々の思いに気づき、地域の発展を願って自分にできることを考え、町づくりに積極的に関わることができるようにする。

5 単元（題材）の評価規準

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		地域の団体組織を調べることを通して、地域の人々が「和間地区のために」力を尽くしていることを理解している。	地域の団体組織を調べることを通して、収集した多様な情報を比較・関連付けながら自分の意見を持ち、地域の発展を願う提言を考えている。	地域の団体に関心を持ち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら、自らの意思で課題を解決しようとしている。
小単元の評価規準	1	①斎藤さんや地域の人たちが協力して農業をしていることを理解している。	①日本の農業の課題と結びつけながら斎藤さんへの質問を考え、話を聞き、和間の農業を考えている。	①和間地区の農業に興味を持ち、意欲的に田植え体験をしようとしている。
	2	②3つの団体それぞれが自助組織であったり、地域の発展のために活動（互助組織）したりしていることに気づいている。 ③地域の人々の話を聞き、自分の生活を振り返り、和間の価値を再発見している。	②必要な情報を集め、インタビューの内容を考えている。 ③調べたことを3つの視点で整理し、団体の良さを伝えようとしている。	②斎藤さんとの出会いから問いを見出し、3団体を調べる課題を自らつくり、解決に向けて見通しをもっている。
	3	④3つの団体は、目的や運営方法は違うが、関わる人々の思いには共通するものがあることに気がついている。	④収集した多様な情報を比較したり関連付けたりしながら地域の人々の思いを受け止め、自分の入りたい団体を選んでいる。	③地域の団体に興味を持ち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら自らの意思で課題を解決しようとしている。
	4	⑤地域の良さへの理解は、地域の人、こと、ものに関わりながら探求的に学習してきたことの成果であることに気づいている。	⑤伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	④自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。

6 指導と評価の計画 (全33時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	評価規準と評価方法
1 和間地区の米作りのよさを探ろう (10)	<ul style="list-style-type: none"> ○和間地区を空から見て、土地の使われ方を知る。(1時間) ○日本の農業を学習し、農家の工夫やこれからの課題を知る。(社会3時間) ○田植体験をして、農家の苦勞や知恵を実感する。(2時間) ○体験学習から分かったことをまとめ、さらに疑問として残ったことを整理する。(2時間) ○斎藤さんの話から農家を支える仕組みがあることを知り、関心を持つ。(2時間) 	<p>[態]① ・行動観察</p> <p>[知]① ・行動観察 ・発言分析</p> <p>[思]① ・感想用紙 ・発言分析</p>
2 和間地区の団体を調べよう (13)	<ul style="list-style-type: none"> ○3つの団体の概要を調べ、課題を設定する。(3時間) ○質問事項を考える。(2時間) ○インタビューの仕方、メモの取り方を学習する。(国語1時間) ○団体にインタビューしたり、実際に見学したりして、活動内容や携わる人の思いを知る。(5時間) ○調べたことを「団体への勧誘」として視点を絞ってまとめる。(2時間) 	<p>[態]② ・行動観察</p> <p>[思]② ③ ・行動観察 ・発言分析 ・見学ノート</p> <p>[知]② ・見学ノート</p> <p>[知]③ ・模造紙</p>
3 和間地区の人々の思いに迫ろう (2) 2/2本時	<ul style="list-style-type: none"> ○3つの団体の組織の仕組みや活動内容を整理し、調べたことを発表しあう。(1時間) ○「自分が入りたい団体」を選び、その理由を考えるを通して、「地域の人々の思い」を探る。 (1時間)本時 	<p>[知]④ ・見学ノート ・発言分析</p> <p>[思]④ ・発言分析 ・ワークシート ・付箋</p>
4 地域への「提言」をしよう (8)	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の地域との関わり方や自己の生き方について友だちと交流し、考えをまとめる。(2時間) ○提言文の書き方を学習する。(国語3時間) ○調べた団体に向けて和間をもっとよくするための提言文を書く。(2時間) ○学習を振り返り、気づいたことを話し合う。(1時間) 	<p>[態]④ ・発言分析 ・ワークシート</p> <p>[思]⑤ ・提言文</p> <p>[知]⑤ ・行動観察 ・発言分析 ・感想用紙</p>

7. 本時案 (25 / 33)

《租税教育との関わり》

- ・郷土愛・・・地域を支える組織を知り、関わる人々の思いに迫ることができる。
- ・税の学習・・・「みんなの生活をみんなでよくしていく」考え方の大切さを理解する。

(1) 題目 和間の人々の思い

(2) 主眼 和間の人々の願いを、調べた3団体の活動内容や地域に対する思いを比較したり関連づけたりしながら「入りたい団体」を選ぶことを通して、理解することができる。

(3) 展開

過程	学習活動	時間	教師の指導・支援	評価等
つかむ も と め る ふ か め る	1. 前時の振り返りをし、本時のめあてを確認する。	2	・3団体の組織の仕組みや活動内容などは、前時に出させ、見やすいようにまとめさせておく。 メンバーになりたい団体を探そう	
	2. 「調べ隊」ごとに調べたことを一文で発表する。	3	○「団体への勧誘」という形でまとめた内容を発表させる。 3団体の人は、どんな思いで活動をしているのかな。	
	3. 「勧誘内容」をくらべ、入りたい団体を選ぶ。	20	○活動内容、やりがい、地域への思い、などの項目を共通のおすすめワードとさせ、選ぶ時の参考にさせる。 ・「いいな。」と思った箇所にその理由を書いて付箋を貼らせる。 ○選んだ団体ごとにグループを作らせる。 ※迷っている児童には、インタビューや仕事をするときには大事にしていることの記録を見返したり、「調べ隊」に再質問したりしてもよいことを伝える。	
	4. 選んだ理由を、グルーピング化し、地域の人々のふるさとにかける思いに迫る	15	・各団体の思いをもとに、選んだ理由をホワイトボードに書き、グループとしての意見をまとめさせる。 ・「放生会委員会」については、自分たちの経験をもとにした考えも聞いていく。 ・グループごとに発表させる。 ○3団体に共通する地域の人の思いは何かを聞き、まとめに近づける。	
活動内容は違っても、どの団体も「ふるさと和間を思う」気持ちは同じ				

ま と め る 5. 今日の振り返りを書く。	5	<p>○本時を振り返り、友だちの意見も取り入れながら、3団体の思いを受け取ったふりかえりやみんなの意見を聞いて考えが変わったことなどを書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、〇〇に入って、活躍したい。 ・〇〇の考えがすごいと思うので、受け継ぎたい。 ・和間地区みんなのことを考えていきたい。 ・()さんの考えを聞いて、私もそう思った。 </div> <p>・次時は、〇〇のメンバーとして、やりたい活動を考えることを予告して終わる。</p>	<p>[知] ④ 3つの団体は、目的や運営方法は違うが、関わる人々の思いには共通するものがあることに気がついている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析 ・振り返り
--	---	--	---

【 学習指導要領より 】

目指す資質・能力

総合的な学習の時間における探求の過程では、児童は、教科等の枠組みを超えて、長時間じっくり課題に取り組む中で、様々な事柄を知り、様々な人の考えに出会う。その中で、具体的・個別的な事実だけでなく、それらが複雑に絡み合っている状況についても理解するようになる。その知識は、教科書や資料集に整然と整理されているものを取り込んで獲得するものではなく、探求の過程を通して、自分自身で取捨・選択し、整理し、既にもっている知識や体験と結び付けながら、構造化し、身に付けていくものである。こうした過程を経ることにより、獲得された知識は、実社会・実生活における様々な課題の解決に活用可能な生きて働く知識、すなわち概念が形成されるのである。

総合的な学習の時間では、各教科等で習得した概念を実生活の課題解決に活用することを通して、それらが統合され、より一般化されることにより、汎用的に活用できる概念を形成することができる。



11月26日 租税教育研究授業（総合的な学習の時間） まとめ

題材 「和間を支える人々」

《グループ協議・全体協議から》

1 見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題設定であったか

付箋に理由を全員かけていたことから、課題は引き受けられていた。

『調べたいで調べたことが、より気持ちを高め、同じ団体を選んで、追及しようとした子』と『発表を聞く中で、他の団体の良さが、初めの気持ちを上回った子』といた。どちらの気持ちも高めるために、団体を選びなおさせるということが、授業者の意図であった。また、単元の構成として、社会科での導入、地域に入り込んでの調査・活動を経ての本時「和間地区の人々の思い」とつなげていることが、子どもの思考の流れに合っていたことも課題の受け止めになったと考える。

2 交流活動

(1) 立ち位置をはっきりさせ、考えをもつことができたか。

- ・付箋、ワークシートがしっかりかけていた。
- ・付箋を書いてから発表して貼らせていた。
- ・付箋の色で考えの集まりが見取りやすい。

⇒自分の考えは持っていた。

自信のない子も考えを持てる工夫があった。

(2) 考えを広げた (3) 考えを深めた (4) 考えを高めた

【成果】

- ・D, Y・・・はじめは、農事組合にしていたが、K, Rの発言を聞いて、放生会委員会へ変更
- ・N, K・・・放生会委員会からまちづくり協議会へ変更「感謝されたことがうれしい。」という言葉がうれしい、やりがい。
- ・K, R・・・入りたい団体を変えている。付箋（いいね）をたくさん貼っていた。3つの団体の願いをしっかりと捉えていた。

⇒友だちの意見を聞いて、考えを広げたとと言える。

- ・M, K・・・迷ったけど、自分がしてみたいから。⇒質問の際に、よくしてもらっていた。地域のことをよく知っていて親しかった。揺らいたが、元に（自分の意見に）戻ったことから、考えを深めたと言える。
- ・H, K・・・放生会委員会の発表を聞いて、いろんな団体のすてきを見つけた。元の意見よりも発表を聞いて膨らんでいた。⇒考えが高まったといえるのではないか。
- ・グループになった際、友だちの意見が聞けていた。

【課題】

- ・12人中4人しか立場を変えていない。「やりがい」に触れた子は、1人。
⇒交流が不十分だったのではないか。
- ・放生会グループの話合いの内容では、団体の思いより、自分の興味から考えを述べていた。
⇒自分の興味から考えており、広げる・深める・高めるという姿は見られなかった。
- ・付箋の取り扱いについて・・・付箋を貼るときに1つ1つしっかり読んだり、活用したりできると良かった。（分類・整理等）⇒授業者のねらいは、付箋の活用になかった。



付箋に思いがたくさん書けていて、複数の団体に対して「いいね」の思いがあったことや付箋が分類されて貼られることによる視覚的な板書が交流を助けていた。それは、本時に至るまでの全体での聞き取りやまとめ、発表などにより、一人一人がそれぞれの団体の良さについて感じ取っていたことが根底にある。本時で付箋をもう少し有効活用するためには、付箋の内容を全員のものとする手立て（発表の場等）があるとよかった。自席で、読んでから貼ることにより、考えをまとめられない子や迷っている子の助けとなった面はある。また、調べたい団体から入りたい団体へと選びなおしもう一度考える場を保障することで、各個人の深まりを促した。（授業構成）しかし、本時のねらう交流について共通理解が不十分であったともいえる。

3 振り返り

- ・子どもの記述が「自分事」として捉えていた。
- ・「感謝」「ありがとう」の記述 →良かった。児童会活動等に生かされていくと思う。
- ・よい投げかけで終わっているので、次どう展開するか見てみたい。
 - ・・・租税教育の根本は、「自分のことから、みんなのこと」
- ・振り返りの視点（「友だちの意見を取り入れながら、3団体の思いを受け取ったり考えが変わったりしたことなど」）がよかったのではないか。自分の考え、思いを深めたり、高めたりする子が多かった。

・子どもの思いを受け止め、子どもの言葉を使ったまとめになっていた。振り返りが「自分事」として捉え、感謝の記述なども見られた。などのことから、本時のねらい（和間の人々の願いを理解する）が達成されたと言える。

《指導講評》

総合学習の中で租税を取り組むメリット

- ①多面的に捉えられる。租税教育をある程度まとまった形で取り入れ、地域を時間をかけて調べられる。
- ②地域に発信する活動が入れられる。見学・発表・討論・ものづくりなど幅広い体験ができる。郷土愛、人間尊重の精神などを育むことができる。（座学では身につかない。）
- ③他教科にも租税教育を広げられる。

提言文・・・相手意識・目的意識があるのと無いのとでは学びに大きな違いがある。

提言文には、租税の視点を入れるよう指導者が意識しておく。

調べる視点を願いから困り・悩みに変えてもよかったのではないか。実際に厳しい面を出してくると変わってくるのではないか。→まとめの中に「なんとかしたい」など和間への憂いが出てくるのではないか。提言文は、単元の出口なので、困り・悩みを入れるとつながっていく。

心から和間が好きな子を育てられればいい。



5年生 単元終末の「提言文」

農業のイベントを作ってほしい
私は、農業のイベントを作ればよいと思います。
イベントを作ると色々な人に農業の楽しさを知ってもらえると思うからです。イベントでは、小麦を使った料理を色々な人で作ったり、農業についてのクイズ大会などをしたら良いと思います。高れい化で若い人が、少なくなりました。後継ぎがいなくなっているからです。イベントを作り農業が増えるとうれしいです。
今は、コロナウイルスという感染症が、はやっていて密になるイベントは、無理になるかもしれません。ですが、イベントを時間ごとに分けて人数制限を行うなどの感染対策をすれば良いと思います。
農業を続けていくためにも農業に興味をもてるイベントを作ればよいと思います。

地域に店を増やしたい
多くは地域にもっと店を増やしたいと考える。
この前、まん画を買いたい時に売っている店が無くてこま。た事があった。
年をとって車に乗れなくな。た時や今すぐないといけない時にやはりコンビニやスーパーがある。た方がいだろう。
一つの地区に個人も店があったら利便が
少ないのではないかと思うかもしれない。
しかし、スーパーやコンビニではなく、自分で作った物などを売。たり買。ったりできる店を建てたらいいのではないだろうか。そうすれば客も来てくれるのではないだろうか。と考える。
店があればかなりの人が便利に使えていいというところから、地域に店をもっと増やした方がよいと考える。

IV 研究のまとめ



租税 絵はがきコンクール参加作品

教職員アンケート結果及び分析会から

①租税教育の視点に基づいた各学年の年間指導計画を立て、授業実践する。	
成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育と各教科の内容の関わりを意識することができた。各教科のねらいを達成させる中で、租税の視点を取り入れることができた。 ・租税との関わりを十分に考えられ、意識しながら授業できた。社会以外の教科とも、税との関わりが考えられた。 ・年間指導計画を立てることで各教科のつながりを考えながら、租税の視点を取り入れ、教科横断的に指導できたことはよかった。 ・一年間の見通しをもち、計画・実践していくことができた。また、租税教育との関わりを意識した授業実践をすることができた。 ・年度初めに計画を立てたので、学年全体を見通して、教科横断的な指導ができた。 ・計画的に行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく見ると、どれも関連がありそうに見えるので、精選が必要。 ・全ての授業を指導計画通りにこなすことはできなかったと思う。計画を立てる際、もっと吟味する必要があった。 ・コロナ禍のため、計画通りに行うことができなかった。(生活科を通してなど、体験を伴うものが難しかった。) ・体験的な部分がコロナ禍のためできなかった。 ・(農作業は、天気または講師の方のご都合等で)日程調整が難しく、活動時期が重なったり、ずれたりしたものもあった。 ・改善が必要なときは、修正が必要。
<p>年間指導計画を立てることで、租税教育と各教科の関わりを考え、意識して授業を行うことができた。また、合科的、教科横断的な指導を計画的に行うこともできた。</p>	<p>実践をしていく中で、計画を立てた段階では、気付かなかったものも見えてくる。</p>
②主題に迫る授業づくりをする。	
<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもち、めあてに向かう効果的な課題の設定。 ○自分の考えをしっかりとめさせる。自分の立ち位置をはっきりさせる。 ○自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く場で、自分の考えを広げたり、深めたり、高めたりする。(ペア、グループ、全体の話し合い) ○学んだことや考えたことを振り返り確認する。次の課題につないだりまとめたりする。 	
成果	課題
<p>〈課題設定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まとめ」から逆思考して課題を考えて設定した。 ・前時までの工夫や努力が子どもたちのものとなっていたため、課題を引き受けていたと思われる。個別の支援もできていた。 	<p>〈課題設定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題になりうる言葉が思いつかず課題を設定できなくて、めあての提示に留まってしまうことがあった。 ・自分事として捉えたり、課題になっていなかった。

- ・子どもの実態と自分の力を合わせて授業を考
えることができた。授業展開を時間配分ととも
に示すことで、1時間の流れの見通しをもたせ
ることができた。

〈考えをもたせる。立ち位置をはっきりさせる〉

- ・ほとんどの子どもたちは考えをもち、友だちの
発表が自分の意見と同じか、似ているのか、違
うのか考えながら聞いていた。また、何は足ら
ずともできていた。友だちの意見を聞いて考え
が変わったり、自分の意見を確かにしたりする
姿も見られた。
- ・ペア、グループ活動を行うことで、自分の考え
がなかなかもてない子どもも、グループなどで
話すことで、自分の考えを少しでももてるよう
になっていた。
- ・自分たちの生活と関わりのあるゴミ問題を調
査・分析することで問題点を明らかにし、自分
たちでできることを考えることができた。
- ・インタビューや調べたことを記録したファイル
を見返しながら、自分の考えをもつことができ
た。
- ・自分の考えをワークシートやホワイトボードに
書かせることで、自分の立ち位置もわかりとて
もよかった。

〈交流〉

- ・各学年、各授業で多様な「交流」の実践がなさ
れた。
- ・平素の授業でも「交流」の時間を入れるよう
になった。→「交流」のもたせ方について自分な
りに整理し検討できた。
- ・興味・関心をもち、自ら体験経験したものから、
自分の考えをしっかりとらせることが、その後
の交流（考えを広げ、深め、高める）に大きく
関わること。単に体験するだけでなく、目的意
識や比較しながら考えるなどの手立てが必要
なこと、などが実践する中で理解できたと思
う。
- ・考えを「広げる」「深める」「高める」に関
して、児童の姿を気にしていたから授業ができ
た。特に、友だちの考えを聞いて考えが変わっ

- ・時にあつても課題がうまく進まなかったときも
あった。

〈考えをもたせる。立ち位置をはっきりさせる〉

- ・字を書くスピードを考慮して、一対一で書かせ
られない時もあった。そのときは、発表できる
子をもたせ方の発言になっていた。
- ・考えがもちにくい児童への支援が後手になる
ことがあった。→自信が無く、自分の考えなど
を表現していいのが分からない児童は、聞き活
動だけになってしまうことがある。また、聞くと
きに「自分の考えと比べながら聞く」となるま
での指導が十分でなかった。

〈交流〉

- ・ただ意見を交わすことや意見をもてない子に
もたせるだけでなく、児童の考えを意図的に
「高め」「深め」「つなぐ」ような交流のさせ方。
- ・一人ひとりが考えをもっているが、グループで
広げるためには、今の段階では、教師の支援（声
かけ）が必要。「わたしもそうだよ」等の発言が
できているので、話型から離れて、自分の言葉
で交流する必要がある。
- ・交流はさっばりではなく、児童の変化を教師が
見取るとともに、児童の「考えの深まり」「高ま
り」を感じさせるための時間の確保、方法。
- ・1年生なので、ペアやグループでの交流活動は、
意見交換をする程度にしかできていない。ま
た、考えが広がったり、深まったり、高まった
りしたかどうかが授業しながら見取るのは、難

た児童の父が授業実践でたくさん見ることができたのが成果だと思う。

- ・子どもがしやが、**振り返り**を考えた。**1つ**の**グループ**での**意見**の**交流**を**促している**ので、スムーズにできた。
- ・ペア、グループ交流では、異同を**出さず**に**聞き、**互いの**よ**い**ところ**や**疑問点**を**出し合う**ような交流ができる**仕組み**にした。
- ・自分の考えを**シート**に書かせたり、**教科書**上の**図**に**マーク**させたりした後に、**交流の時間**を**とる**ように心がけた。

〈まとめ・振り返り〉

- ・1時間の中で、「**まとめ**」は**しっかり**できた。
- ・**振り返りの時間**を**確保**することを意識して授業をした。
- ・「**交流のさせ方・仕方・まとめ方**」について、**多様な事例**、**多様な視点**からの**意見・分析**に触れることで**学ぶ**ことが多かった。
- ・**児童、教師の振り返り**を**見合う**ことで、**学び**が**深まった**。

子どもたちが引き受けやすく、考えをもち交流しあうことのできる課題設定ができた。

子どもたちに考えをもたせたり、考えを位置づけてたりすることができた。

「交流」することを意識した授業を考え、実践することができた。その中で、子どもたちが活発に交流することができるための手立てを子どもたちの実態に合わせて工夫し、実践を行うことができた。

しやが。

- ・**時間**が**かなり**多く**かかった**。
- ・**児童の考え**が「**高まる**」「**深まる**」とは**どういうことか**についての**具体的な説明**。

〈まとめ・振り返り〉

- ・**振り返り**までの**時間設定**を見直す。
- ・「**振り返り**」は、**毎時間**行える**わけ**では**なかった**。
- ・**毎時間****振り返り**を書かせること**はできなかった**。**数名**の**発言**で**終わる**こともあった。**めあて**にあった**振り返り**を書かせるのも説明が難しく、**なかなか理解**してもらえなかった。また、**振り返り**だけでも、**内容**が**まとめ**になってしま**う**ことがあった。
- ・**振り返りのあり方**について、**子どもの考え**をもう少し**取り上げ**、**板書**に**位置づける**べきであると反省した(まとめも同様)。次の課題へつなげたり、**まとめ**たりが**なかなか**できなかった。
- ・**振り返りの仕方**について**子ども**で**分かる**ような**掲示・文庫**が**もっと**できたと思う。
- ・**教科**によっては**1時間**の中の**振り返り**ではなく、**単元**を通じての**振り返り**から、**主題**に迫ったり、**考え**が**高ま**ったり**深ま**ったりすることもある。(1時間で完結しないことがある。)
- ・**振り返り**を**充実**させていく必要がある。

子どもが引き受けやすい課題とはどういうものか、具体的に考え共通理解する。

考えをもったり、立ち位置をはっきりさせたりするためには、聞き方の指導も大切である。また、発言できる子どもだけの授業にならないように、自信が無かったり、考えがもてなかったりする子どもたちへの支援も引き続き必要である。

6年間を見通して、発達段階に応じた交流のさせ方、つけたい力の確認が必要。まとめるための

まとめや振り返りまで意識した授業実践を行うことができ、教師自身の学びにもつながった。

考えをもつ、立ち位置をはっきりさせるための手立て

- ・ワークシートやホワイトボード
- ・前時までの学習を記録したファイル
- ・ペアやグループ活動などを活用

交流のための有効な手立て

- ・子どもたちが興味関心をもち、自ら体験した
ものから、自分の考えをしっかりとらせる。
- ・目的意識をはっきりさせることや比較しながら
考えさせる。
- ・ペア学習がしやすい席づくり
- ・異同を比べながら聞き、よさや疑問点を出し
合わせる。
- ・考えをもつ時間を保障する。

交流なのか、意見を聞き合う交流なのかなど、交流の中身、内容、いつどの段階で交流をさせるのかなどの吟味も必要である。交流を通して、児童がどう変容したかを見取る方法を考えていく。

次時につながるまとめや振り返り、1時間完結の授業をするための時間配分などが今後の課題として残った。

③授業実践や振り返りから、年間指導計画を見直す。

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に見直しの時間をとったことで、1年間でどんな内容があるのかを大まかに確認する上でもよかった。 ・どこが足りず、どこが無駄な時間なのかが明らかになり、活動の見直しができる。特に外部依頼が必要な活動が早めに分かる。 ・年間計画を先に実践ができたと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践するたびに見直すことは難しいので、来年度に向け、見直しの時間をもつ必要がある。 ・関係がある分は、年間指導計画に乗せていたが、全部を同じ重さにするには時間が足りないことに気がきました。学期に1つずつ、年間1つくらいでもよいかも今は思っています。 ・今年度の研究を振り返り、それをまとめて年間計画を見直し、来年度に向けて作成するとよい。
<p>年間指導計画を作成したことで、教育課程全体を見通して実践を考えることができた。</p>	<p>全部を行うと時間が足りないため、来年度に向けて、見直しの時間をとる必要がある。</p>

児童アンケート及び分析会から（2年間の比較）

交流活動について

5「友だちや先生の話をしっかり聞いていますか」

肯定評価《あてはまる》（2.2%）アップ

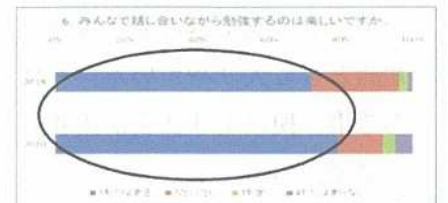
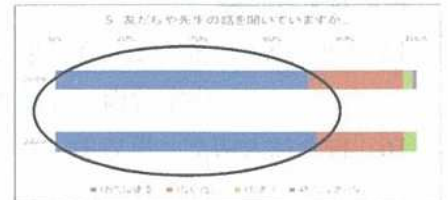
6「みんなで話し合いながら勉強するのは楽しいですか」

肯定評価《あてはまる》（5.6%）アップ

14「自分の考えを話すことができますか」

肯定評価《だいたい》（21.7%）アップ

課題の設定や考えを持たせる場の保障をすることにより、「児童が立場をはっきりさせた考えをもって話し合いに臨んだり」「友だちの意見を受け入れたり」するような交流を行うことができるようになってきたと分析する。自分の考えを話すことに対する抵抗感が少なくなっていることは、受け入れてくれる学級の存在、伝えたいという思い、疑問を解決しようとする思いが醸成されてきたからではないか。

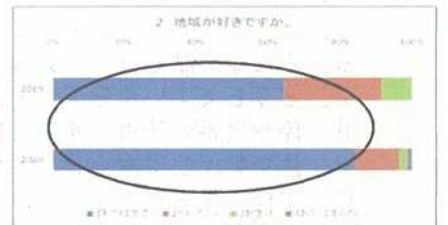


地域についての理解について

2「地域が好きですか」

肯定評価《あてはまる》（19.6%）アップ

今年度はコロナ禍により、体験学習のさせ方を工夫しなければならなかったが、地域を支える多くの人々が活力ある本和間地区を維持していることを調査・体験などにより学習することができた。古くから続く地域の諸行事に毎年参加してきた子どもたちがより地域を好きになり、地域の一員としての自覚を強くしたと思われる。



自他の良さを認めながら、共に伸びようとする児童について

12「自分のよいところを見つけられますか」

肯定評価《あてはまる・だいたい》81%前後で変化なし

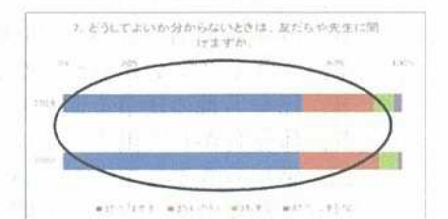
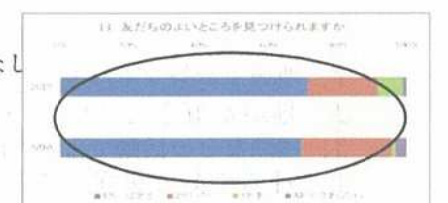
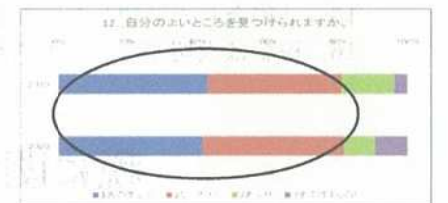
13「友だちのよいところを見つけられますか」

肯定評価《あてはまる・だいたい》92.5%前後で変化なし

7「どうしてよいかわからない時は、友だちや先生に聞けますか」

肯定評価《あてはまる・だいたい》93%前後で変化なし

アンケートからは、変化を確認できなかったが、概ね認め合う姿はあると言える。全校でも「いっしょに頑張る」という目標を掲げていることもあり、意識が高い。しかし、自己肯定的な見方は薄い面がある。褒められる経験、成功体験、達成感などに関連していると思われるので、今後の課題である。



税に対する認識

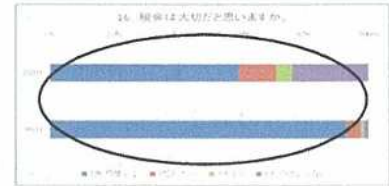
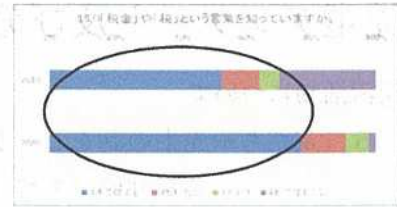
15『「税金や」「税」という言葉を知っていますか』

肯定評価《あてはまる》24.6%アップ

16「税金は大切だと思いますか」

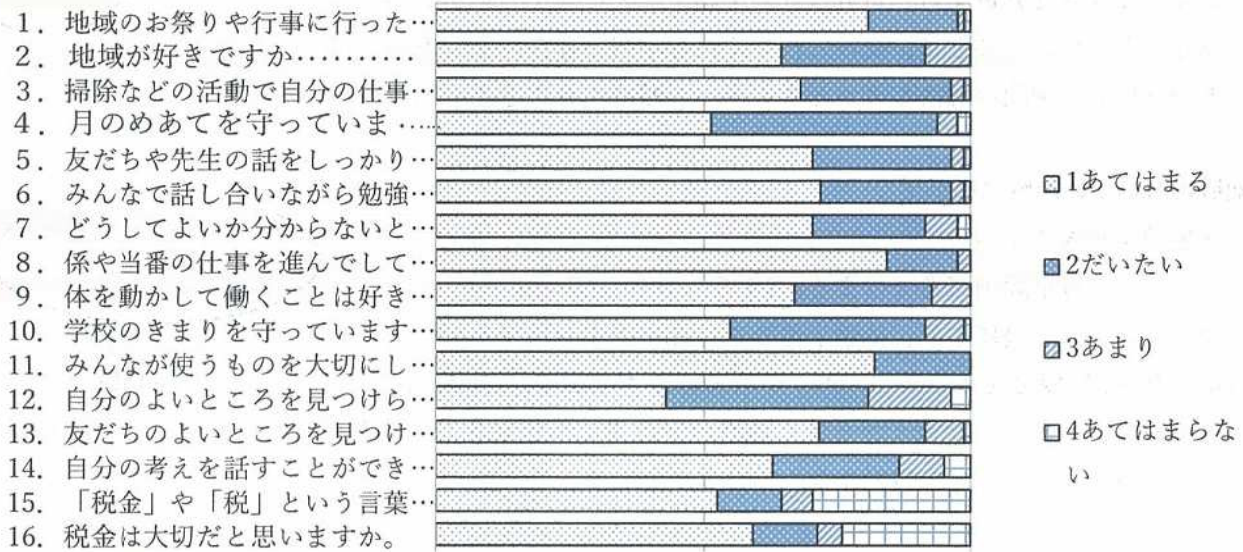
肯定評価《あてはまる》34.8%アップ

子どもに馴染みの薄い税金は、学習したり指導したりすることで、知識として入りやすいが、それが義務であり、一市民としての役割である事、税により社会が成り立っている事等を今後も深く学習していく必要がある。



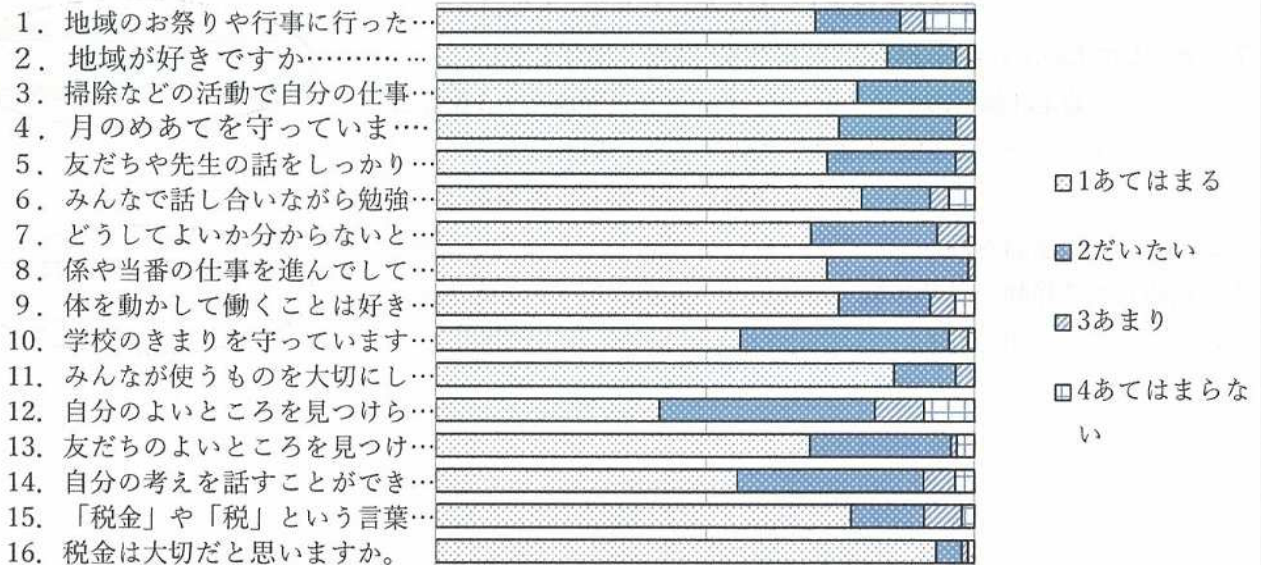
税に関するアンケート (2019.10月)

0% 50% 100%



税に関するアンケート (2020.10月)

0% 50% 100%



ま と め

学校教育目標の「ふるさと『和間』を愛し、進んで学び、自他を大切に作る心豊かな児童の育成」を受け、地域学習に重点を置き、租税の視点を取り入れた交流活動による思考力・判断力・表現力の育成を目指し、自他の良さを認め合える児童を育てるというテーマのもと、本研究が始まった。

①租税教育の視点に基づいた各学年の年間指導計画を立て、授業実践する

「租税」が教科のどんな部分で関わりがあるのかという視点で、教育課程を見直すことができた。また、指導者が教科横断的な関連を持たせて指導しようという意識を持つことができた。今後も評価改善の視点で振り返り、教育課程を整備していく必要がある。

②主題に迫る授業づくりをする

主題に迫る課題づくりをするためには、まず、その単元で何を身に付けさせるのかをはっきりさせて、1単元を見通した単元計画を作る。教師が見通しを持つことで、子どもにもゴールを意識させることができる。交流はめめて達成のためのツールであることを再確認し、交流ありきとならないよう指導者が児童に明確な目的意識や相手意識を持たせた上での交流活動としたい。また、交流活動による考えの広がり、深まり、高まりのために生徒指導の3機能を意識した授業展開を今後も模索していく。

生徒指導の3機能と本校の討議の柱の関係

「自己決定の場を与える」：課題を引き受け、自分の考えを持たせる

「自己存在感を与える」：考えを伝え合うことで交流する

「共感的な人間関係を育成する」：友だちの意見を聞く・自分の根拠をはっきりさせる・
考えを膨らませる・友だちの意見を取り入れる

③地域学習について

本和間地区は、地域の自治や地域全体で行う子ども育てという考え方が根付いている。そこで、子ども自身の地域についての確かな理解を促す必要を感じている。この2年間は、子どもの疑問や課題に応じて、地域に出向き、調査・聞き取り、体験、学習会を行うことで地域の方々と触れ合いながら楽しく学習を進めてきた。体験することや触れ合うことで、児童のやる気や考える力をより引き出すことができた。そして、新しく分かった事や感じた事を整理・分析、まとめ・表現することでよりよく課題を解決していこうとする態度を育ててきた。それらを通して地域に感謝したり貢献したりしたいという気持ちを持つことができた。

④子どもの見取りについて

提案授業を全員の教諭が行うことで、主体的な研修となった。また、提案授業後の研究の場では、討議の柱を3つ用意し、子どもの変容の視点で協議してきた。(3つの視点については「I研究の概要6研究方法」と授業観察シートにて記載)視点を設けたことにより、教師自身が、児童の会話やつぶやき、動作、ワークシートへの記述、困っている姿、分かった時の表情等に目が向くようになった。事後の話し合いで、どこで子どもの意見が変わったのか、何によって変わったのか等の分析を行うようになった。また、子どもの側から見ると、子ども自身が自分の変容に気づいているかについての捉えも必要という意見のもと、児童の内的な達成感を感じさせていくようにしたい。そのためには、もう1回考えを書かせる場面や適宜、振り返る場面(時間の途中や終わり)の設定も有効であると考えられる。

⑤残された課題と今後の取組について

○課題の引き受けまでに時間をかけすぎること、交流が深まりにくい。(時間配分)単元構成や単元を通じて追及していくことが整理されていることや子ども自身が見通しをもっていることが課題の引き受けにつながると考えられる。

○自分の意見を持つ、意見を出す事まではできるようになっている(交流の深まりをねらう)ことから、今後は自分の意見を理解してもらい、友だちの意見の中身について考える、違いについて考えることを更にねらっていきたい。そのために話し合いの進め方と話し合いの視点を示すことや、討議を深めるための目的意識を持てるような支援をしていくことに重点をおきたい。少数意見を引き出すためには、なんでも言える教室環境及び人間関係(学級集団)の醸成が必要である。教師はどんな指導や支援が有効であるかを追求したい。そのためには、適切な評価の視点のもと、適宜フィードバックすることと次につながる教師評価と児童の自己評価(振り返り)が必要である。指導と評価が一体化した授業展開や振り返りに焦点を当てていく必要がある。評価については、次のような資料も参考となる

評価の方針の児童生徒や保護者への共有について

学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、児童生徒自身に学習の見通しを持たせるために、学習評価の方針を事前に児童生徒と共有する場面を必要に応じて設けることが求められており、児童生徒に評価の結果をフィードバックする際にも、どのような方針によって評価したのかを改めて児童生徒に共有することも重要である。

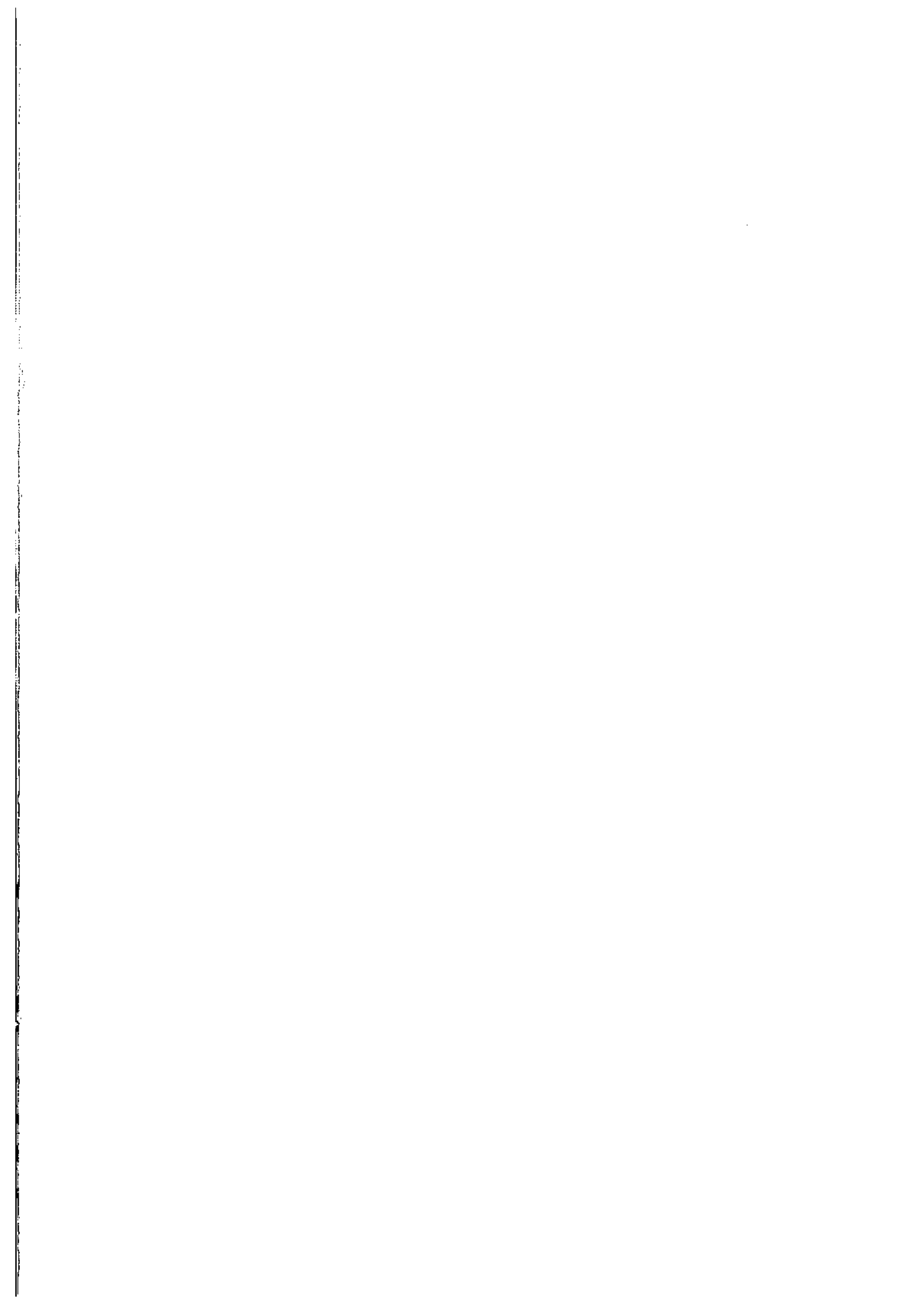
また、新学習指導要領下での学習評価の在り方や基本方針等について、様々な機会を捉えて保護者と共通理解を図ることが非常に重要である。(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター より)

○手立てやツールの使用について

ワークシートの作成に力を入れてきたが、何度も使える様式や簡単に作り変えられる様式のもの有効性が高い。共有保存や定型化を進めていきたい。ホワイトボードは各クラスに常置し、考えをまとめて発表する際に有効なツールであったが、記入に時間がかかる事や文字のサイズや書き方による見えにくさもある。児童には、伝えたいことをわかりやすく端的に書くという意識をもたせることと、適切な活用場面や提示の仕方などを工夫していきたい。更にIT化が進められていることからi p a d等の活用についても今後研修していきたい。

○ペア学習やグループ討議を取り入れて、交流を図ってきたが、ペアやグループの組み方にも指導者の意図が反映され、互いを補い合い、新しい考えに発展させることが期待される。

この研究を通じて、育成を目指す資質・能力として、「人との関わりを通じ、課題を捉え解決していく力（問題発見解決能力）」をつけることを目指して取り組みをしてきた。これらの事が、自立した学習者及び自立した公民としての素地となっていくことを願っている。



おわりに

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため広く授業公開することができませんでしたが、紙面をもちまして本校が取り組んできた研究の一端をご紹介させていただいたことを大変嬉しく思っています。

2年間の研究を通して、教職員と子どもたちの学ぶ姿が変わってきました。それは教職員が同僚性を高め、研究主題に沿って仮説の検証を積み重ね「授業づくり」に取り組んできた結果です。

授業づくりを通して教職員と子どもたちが本時の課題や価値を共有し、課題解決に向かう「交流・まとめ・ふりかえり」を位置づけた授業展開を試みてきました。そして、調査、比較、整理、分析、表現などの必要な手法を使いながら、本校が設定している「問題発見解決能力」の育成のための取組を続けてきました。とりわけ、地域に住む人材や地域の施設等と連携・協働することで多様な学びの機会が生まれ、子どもたちも「自分の地域を知り、地域のために何かしたい。」という地域貢献の姿も現れてきたと感じています。

子どもたちは充実した交流活動の中で、新たな学びの獲得や課題解決ができたとき、児童自身が学びの達成感を味わうに違いありません。充実した授業の積み重ねを通して、教師と児童の信頼関係が構築され、絆が深まることで次の豊かな学びにつながっていくことも本研究を通して実感しています。日々の授業が、子どもたちにとっていかに貴重な時間であるかを心にとめ、その質の向上に尽力することは、教職員として忘れてはならない大切な姿勢だと思います。このことを心に深く刻みながら、更なる授業改善研修を行い、今後も歩み続けていきたいと思っています。

令和3年3月

宇佐市立和間小学校
教頭 三浦 知治

令和元年度

【指導・助言者】

宇佐市教育委員会指導主事

末永 志保

宇佐税務署 総務課

伊藤 彰

松田 譲二

大分税務署 税務広聴広報官

小倉 大輔

益永 寿美

西ノ園 亮太

令和2年度

【指導・助言者】

大分県教育庁義務教育課指導主事

長谷部 英樹

宇佐市教育委員会指導主事

三浦 圭二

宇佐税務署 署長

山田 茂

宇佐税務署 課長

藤田 武士

宇佐税務署 係長

松山 幸太

大分税務署 税務広聴広報官

守川 由紀子

鈴木 武

【研究同人】

校長 天野 文代

教頭 三浦 知治

教諭 渡邊 雪美

養護教諭 中尾 悦子

教諭 高松 睦美

教諭 須藤 優子

教諭 信國 裕計

教諭 衛藤 紀子

教諭 高橋 理絵

教諭 小野 恵祐

講師 片多 遙菜

非常勤事務 馬場 和美

主事 末 雅人

支援員 久保崎 智子

【研究同人】

校長 天野 文代

教頭 三浦 知治

養護教諭 中尾 悦子

教諭 高松 睦美

教諭 須藤 優子

教諭 信國 裕計

教諭 衛藤 紀子

教諭 高橋 理絵

教諭 佐々木 良輔

教諭 園田 悠里

教諭 小野 恵祐

非常勤事務 大森 順子

主事 森 美津子

支援員 久保崎 智子

SSS 宇都宮 めぐみ

